

保 育 学 科 2 年

一 般 教 育 科 目

下関短期大学 保育学科の教育目的・教育目標・学習成果について

【教育目的】

本学の教育理念「温雅礼節」および内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・厚生労働省「保育指針」・文部科学省「幼稚園教育要領」に基づき、保育学科では、以下を教育目的としている。

保育・幼児教育に関する専門知識と技能を養い、社会の多様な保育ニーズに対応できる実力と豊かな人間性を備えた保育者を養成すること

【教育目標】

保育学科は、「知・技・心」の調和のとれた保育者の養成を行うため、3つの教育目標を立てている。

1. 机上の学習を即現場で実践し即応力を磨く
2. コミュニケーションスキルを幅広く学び対応力を磨く
3. 多様な保育内容表現を学び、どのような現場・場所でも活用できる力を磨く

【学習成果】

保育学科の学習成果は、以下3つの観点に基づき、向上・充実を図っている。

1. 保育者としての専門知識・技術を身に付けている
2. 保育者として必要な表現活動における能力を身に付けている
3. コミュニケーション力を持つ豊かな人間性を身に付けている

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期		<input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
生活と芸術 HA1101	藤井 智行 前田 知子	オムニバス	L	必修 選択 2	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	教養科目					教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項						保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 この授業では生活と芸術にスポットを当て、関わりや効果などを受講者で意見を出し合いながら考えていきます。私たちは、暮らしの中であらゆる物に接し、見たり聞いたりしています。このとき、人の気持ちは変動を起こします。視点を変えて見ることにより、今まで感じられなかったことが見られるようになってきます。また、地域と芸術にも目を向け、町づくりの中にどのような芸術を取り入れることができるのか、自分の考えをまとめてプレゼンテーションを行います。				【成績の評価方法】 授業への参加度 30% 課題提出 70%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・音楽と造形の近代～現代の流れを理解する。 ・郷土と芸術との関わりについて理解する。 ・地域の現状を調べ、課題点を整理できる。 ・自分の考えをプレゼンテーションで発表することができる。				DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ◎			
【授業計画】							
回	回数	テーマ	内 容				
	1	ガイダンス	生活と芸術について(藤井)				
	2	生活と音楽①	生活と音楽の関わりについて(前田)				
	3	生活と音楽②	音楽史(近代～現代)(前田)				
	4	生活と造形①	生活と造形の関わりについて(藤井)				
	5	生活と造形②	美術史(近代～現代)(藤井)				
	6	地域と芸術(音楽)	山口県と音楽の繋がり(前田)				
	7	地域と芸術(造形)	山口県と造形の繋がり(藤井)				
	8	パブリックアート①(校外学習)	街に溢れている芸術を散策①(藤井、前田)				
	9	パブリックアート②(校外学習)	街に溢れている芸術を散策②(藤井、前田)				
	10	生活デザイン	生活の中におけるデザイン・ユニバーサルデザイン(藤井)				
	11	芸術を活かした町おこし①	下関市の芸術(藤井)				
	12	芸術を活かした町おこし②	下関市と地域活性化(前田)				
	13	生活と芸術についての課題①	プレゼンテーションの準備①(前田)				
	14	生活と芸術についての課題②	プレゼンテーションの準備②(藤井)				
	15	発表	プレゼンテーション(前田)				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない							
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)生活の中にある芸術を探してみましょう。 (復習)ワークプリントを見ながら振り返り、課題提出に向けた準備をしましょう。							
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。							
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワーク・フィールドワーク・プレゼンテーション							
【課題等への対応】 課題提出を確認した後、個別に対応します。							
【指定教科書】 なし				【参考書等】 末永照和「20世紀の美術」(美術出版社) 片岡功他「はじめての音楽史」(音楽之友社)			

2023年度 授業計画

保育学科 No. 2

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	<input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
日本国憲法 HA1105K	◇ 中村 芳喜	単 独	L	必修 選択 2	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	教養科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項					保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 この授業では、日本国憲法の全条文を学びます。憲法と私たちの生活の関係を学びます。憲法改正の論議について考え、主体的な判断力を身に付けます。			【成績の評価方法】 定期試験 70% 授業への参加度 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・日本国憲法の基本理念である「国民主権主義」「基本的人権の保障」「恒久平和主義」の精神を理解する。 ・憲法の全体構成を理解する。 ・憲法をめぐる今日の課題を学び、主体的に判断できる。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。			◎
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。			△
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。			△
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。			○
			自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。			◎
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	日本国憲法の成立	大日本帝国憲法の概要、日本国憲法の成立過程			
	2	前文・第1章 天皇	前文、天皇の地位と国民主権(第1条～第8条)			
	3	第2章 戦争の放棄①	平和主義・戦力不保持・交戦権の否認(第9条)			
	4	第2章 戦争の放棄②	自衛隊・日米安全保障条約			
	5	憲法第9条の改正	改正をめぐる議論、あなたはどうか判断するか			
	6	第3章 国民の権利及び義務①	基本的人権の保障、平等権(第10条～第14条、第24条)			
	7	第3章 国民の権利及び義務②	自由権的基本権(第15条～第40条)①			
	8	第3章 国民の権利及び義務③	自由権的基本権(第15条～第40条)②			
	9	第3章 国民の権利及び義務④	社会権的基本権(第15条～第40条)、参政権、能動的諸権利			
	10	第4章 国会	国会の地位と権能(第41条～第64条)			
	11	第5章 内閣	内閣の地位と権能(第65条～第75条)			
	12	第6章 司法	裁判所の地位と権能(第76条～第82条)			
	13	第7章 財政 第8章 地方自治	財政(第83条～第91条)、地方自治(第92条～第95条)			
	14	第9章 改正、第10章 最高法規、第11章 補足	(第92条～第103条)			
	15	まとめ	立憲主義の意義について考える			
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習) 次の時間の条文を読み、わからない言葉などをチェックしておきましょう。 (復習) 毎時間プリントを配付するので、授業内容を振り返りましょう。						
【オフィスアワー】事前に予約すればいつでも対応します。教科以外の相談もウェルカム。						
【アクティブラーニングの授業手法】 憲法改正についてグループディスカッションします。						
【課題等への対応】 試験結果の確認には個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 池上彰「超訳 日本国憲法」(新潮新書) 毎日、新聞・テレビなどでニュース報道をみてください。			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	<input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
社会とデータ HA1108	原田 治幸	単 独	L	必修 選択 2	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	教養科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項					保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 Microsoft エクセルなどを用いた統計処理やデータ分析などを通して、日常の社会生活等のデータを題材にして、数理・データサイエンスによる処理や分析等の楽しさ、必要性、リスク等を知り、活用方法について学びます。			【成績の評価方法】 定期試験 40% 課題・レポート 40% 授業への参加度 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・統計についての基本用語や意味を理解する。 ・エクセルの機能を活用したデータの分析ができる。 ・インターネット上のデータを収集・分析できる。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		◎	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		△	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		○	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	ガイダンス	本科目の概要、PC設定、エクセルの相対参照、絶対参照				
2	エクセルによる準備①	関数(sum,average,max,min,rank.eq)				
3	エクセルによる準備②	関数(if,条件式)				
4	エクセルによる準備③	関数(vlookup,hlookup)				
5	エクセルによる準備④	関数(index,match)				
6	エクセルによる準備⑤	関数(文字列操作,sumif,subtotalなど)				
7	エクセルによる準備⑥	関数(countif,large,smallなど)				
8	エクセルによる準備⑦	関数(sumifs,countifsなど)				
9	エクセルによる準備⑧	関数(sumifs,countifsなど)				
10	統計の基礎①	度数分布表、ヒストグラム、平均値、中央値、標準偏差など				
11	統計の基礎②	相関図、相関係数など				
12	データ分析①	ソールセットアップ、単回帰分析、重回帰分析など				
13	データ分析②	最適化(ゴールシーク、ソルバー)など				
14	データ分析③	ネット上のデータの利用、学校関係統計など				
15	データ分析④	ネット上のデータの利用、RESASなど				
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習)授業の内容に関する資料を配布しますので、事前に読み込んでおきましょう。 (復習)繰り返し練習しデータ分析の基礎を身に付けましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 PCを併用しての授業です。						
【課題等への対応】 課題の評価や試験結果の確認には個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 藤井 直弥・大山 啓介 「Excel 最強の教科書[完全版]」(SBクリエイティブ)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
外国語(英 語)	山本 正俊	単 独	L	必修 選択 2	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期	
HC1208					<input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	外国語科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育職員免許法施行規則第66条の6 (免許法別表第一備考第4号に規定する文部科学省令で定める科目)				保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 この授業では、英語基礎力の2本柱である「単語力」と「文法力」を身につけ、正しい方法で英文を読むための読解力を身につける。その方法として、パラグラフリーディングを取り入れて、わかりやすく理解できる力を身につけます。			【学生に対する評価】 定期試験 50% 小テスト・課題等 20% 授業への参加度 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・200語程度の英文を読むために文法力や単語力を学習する。 ・英文読解にはパラグラフリーディングを取り入れ、文章を読む目的である「文章が何について書かれているか」「その文章から得たい情報」を的確に獲得する技術を学ぶ。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。			◎
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。			○
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。			△
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。			○
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。			◎
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	Introduction	英語の4技能について(特に読解を中心に)			
	2	パラグラフリーディング	読解をする上での知っておきたいことの確認			
	3	スキミングとスキヤニング	英文の内容理解とそのためキーワード探し			
	4	Lesson1	「人間と猫の特別な関係」			
	5	Lesson2	「特別な友人からの嬉しい贈り物」			
	6	Lesson3	「なくしたカメラが戻ってきた！」			
	7	Lesson4	「課題は『大好きな英語の映画』について」			
	8	Lesson5	「真水はますます貴重になる」			
	9	Lesson6	「マルコ・ポーロが残したもの」			
	10	Lesson7	「鏡の歴史」			
	11	Lesson8	「象の社会とその敵」			
	12	Lesson9	「読書から得られるもの」			
	13	まとめ①	文法・語法			
	14	まとめ②	英語表現			
	15	まとめ③	振り返り演習問題			
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分) (予習)授業計画の内容に沿って、まず日本語表現を考えましょう。(30分) (復習)英語表現を実際の生活において使ってみましょう。(1時間)						
【オフィスアワー】特に定めません。事前に予約を取ってください。						
【アクティブラーニングの授業方法】 毎回の授業テーマに沿って口頭発表等を行います。						
【課題等への対応】 課題提出については、個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 木村達哉、マーク・ピーターセン「はじめての英文速読」(旺文社)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No. 5

授業科目名 外国語 (東アジア言語) HC1202	担当教員名 金 銀英	担当形態 単 独	授業方法 L	単位数 必修 選択 2	開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	外国語科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項					保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 この授業では、韓国語を学んだ事がない初心者を対象に韓国語の基礎を学びます。具体的にはテキストに沿ってハングルとその発音、基本挨拶、簡単な文構造の学習をします。			【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・ハングルが読めて、その発音ができる。 ・発音規則を理解し正確な発音ができる。 ・基本挨拶ができる。 ・基本的な文の構造を理解することができる。 ・自分の言葉で自己紹介ができる。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	はじめにー韓国語とハングルについてー	韓国と韓国人、韓国語、ハングルについて学ぶ				
2	文字と発音① 単母音	基本的な単母音8つのハングルと発音を学ぶ				
3	文字と発音② 子音1、重母音	基本的な子音8つ、重母音14個のハングルと発音を学ぶ				
4	文字と発音③ 子音2	濃音、激音のハングルと発音を学ぶ				
5	文字と発音④ パッチム	パッチムで使われる子音の発音を学ぶ				
6	発音規則 連音化・鼻音化	基本的な発音規則を理解し、正確な発音で短文を読む				
7	名詞文「～です」の理解	韓国語の基本的な文構造を理解する				
8	否定の名詞文「～ではありません」	指定詞を学ぶ				
9	会話① 自己紹介	初対面の人との会話シーンで自分のことを説明することができる				
10	存在詞「あります/ありません」の理解	存在詞を学ぶ				
11	会話② 道案内	場所を尋ねる、事物の位置を説明することができる				
12	用言文「～ます/～です」の理解	韓国語の用言活用を理解する				
13	数詞① 漢数詞	日付、曜日の言い方を学ぶ				
14	数詞② 固有語数詞	年齢、数の言い方を学ぶ				
15	まとめ ー韓国語発表ー	ここまで学習した内容をもとに韓国語発表をする				
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input checked="" type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週2時間程度) (予習)各授業の最後に告知する「次回の講義」に従って準備しましょう。 (復習)毎回、前回の授業で学習した内容についての小テストを行います。学習内容を定着させるために、しっかり復習しましょう。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 毎時間口頭発表を行う。						
【課題等への対応】 課題については、課題ごとにGoogle Classroomで明示する。提出した課題は添削後コメントを添えて返却する。 評価に関する確認は、個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 山崎玲美奈「速読速聴・韓国語 読んで覚えて話せる単語」(Z会)			

Subject :Foreign language(East Asian Languages)

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	
キャリア総合Ⅱ	原田 治幸 他	オムニバス 複 数	S	必修 1 選択	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期	<input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
HB1502KC					<input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	キャリア教育					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項						保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、自分の進路に関して必要とされる専門的な知識・スキルを身につけることを目的に、①社会の中の自己認識の可視化、②社会に対する知識・理解の深化、③就職試験や就職後に必要となる構成力・表現力・説明力といったプレゼンテーション力、④思考力・判断力・表現力、⑤他者と協働した作業効率の向上を目標に授業を行います。 ①②③④⑤の目標に沿った演習や講義をグループ活動を中心に行います。			【成績の評価方法】 授業時の成果物 70% 授業への参加度 10% 課題・レポート 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・社会の中における自分理解の可視化 ・社会における出来事の整理と発表 ・スライド作成や発表等を通したプレゼンテーション力の向上 ・ディベートを通した社会に対する知識の深化と情報の整理 ・ディベートを通した立論、質問、反論、口述筆記する力 ・グループ活動を通した他者と協働した作業効率の向上 ・履歴書作成及び面接試験に向けた事前準備			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
回数	テーマ	内 容				
1	オリエンテーション	自己紹介による自己表現力の向上(原田)				
2	自己認識の可視化	ワークシート作成とグループ発表、振り返りシート作成(原田)				
3	身近な社会と言語能力の向上①	テーマ決定、チャート作成(原田)				
4	情報通信技術(ICT)活用	Googleクラスルーム、スライドの使用、PCとスマホの活用(原田)				
5	身近な社会と言語能力の向上②	情報収集、Google スライド作成①(原田)				
6	身近な社会と言語能力の向上③	情報収集、Google スライド作成②(原田)				
7	身近な社会と言語能力の向上④	グループ発表、振り返りシート作成(原田)				
8	文章をとおして社会をみる①	共感的な感想、批判的な感想、自論の文章表現①、振り返りシート作成(原田)				
9	文章をとおして社会をみる②	共感的な感想、批判的な感想、自論の文章表現②、振り返りシート作成(原田)				
10	思考力、判断力、表現力の向上①	ディベートの説明、情報収集・整理し作業シート等を作成(原田)				
11	思考力、判断力、表現力の向上②	ディベート(ステージⅠ)を実施、判定、評価シート作成(原田)				
12	思考力、判断力、表現力の向上③	情報収集・整理し作業シート等を作成(原田)				
13	思考力、判断力、表現力の向上④	ディベート(ステージⅡ)を実施、判定、評価シート、アンケート作成(原田)				
14	就職に向けて、履歴書①	履歴書作成準備と個別面談(原田)				
15	履歴書②	履歴書作成と個別面談(原田、進路支援課長)				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分) (予習)ICT機器の活用について慣れておきましょう (復習)学んだことを、就職試験や就職後に仕事に生かせるよう準備しましょう						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 Googleクラスルーム・スライドを利用します。グループ活動による情報収集、スライド作成、発表、ディベート、判定を行います。						
【課題等への対応】 課題の評価の確認には個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 「あなたの子育てを応援します」下関市こども未来部			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期		<input checked="" type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
キャリアデザインⅡ	原田 治幸 他	オムニバス 複 数	S	必修 1 選択	1年次 <input type="checkbox"/> 前期	2年次 <input type="checkbox"/> 前期	
HB1504KC					<input type="checkbox"/> 後期	<input checked="" type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	キャリア教育					教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項						保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、自分の進路に関して必要とされる専門的な知識・スキルを身につけることを目的に、①社会の中の自己認識の可視化、②社会に対する知識・理解の深化、③就職試験や就職後に必要となる構成力・表現力・説明力といったプレゼンテーション力、④思考力・判断力・表現力、⑤他者と協働した作業効率の向上を目標に授業を行います。 キャリア総合Ⅱで培った①②③④⑤の学びを基盤に、面接試験に向けた準備と模擬面接を行います。特に、就職後に向けて各分野の専門の講師からの講演・演習等を中心に授業を行います。				【成績の評価方法】 授業時の成果物 70% 授業への参加度 10% 課題・レポート 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・就職試験に向けた面接力を育成する。 ・各テーマ学習を通した就職後に必要となる様々な資質能力の向上を図る。				DPとの関連(大◎、中○、小△)			
				社会人としての幅広い教養を身に付けている。		◎	
				保育に関する専門的な知識を身に付けている。		△	
				保育に関する専門的な技能を身に付けている。		△	
				状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
				自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。		○	
【授業計画】							
チェック	回数	テーマ	内 容				
	1	オリエンテーション・模擬面接に向けて	授業内容の概要説明、模擬面接事前指導(原田)				
	2	模擬面接	個別模擬面接、振り返りシート作成(事務局職員)				
	3	就職試験・就職後に向けたテーマ学習①	上手な話し方・聞き上手、振り返りシート作成(原田)				
	4	就職試験・就職後に向けたテーマ学習②	社会人としての話し言葉、振り返りシート作成(原田)				
	5	就職試験・就職後に向けたテーマ学習③	社会人としての雇用関係のキホン、振り返りシート作成(弁護士)				
	6	就職試験・就職後に向けたテーマ学習④	1つの人権課題について学ぶ、振り返りシート作成(外部講師)				
	7	就職試験・就職後に向けたテーマ学習⑤	海外の文化と幼児教育・初等中等教育、振り返りシート作成(県国際交流員)				
	8	就職試験・就職後に向けたテーマ学習⑥	年金セミナー、振り返りシート作成(年金事務所職員)				
	9	就職試験・就職後に向けたテーマ学習⑦	環境学習、振り返りシート作成(ネイチャーゲームインストラクター等)				
	10	就職試験・就職後に向けたテーマ学習⑧	下関市の就学前教育、振り返りシート作成(市職員)				
	11	就職試験・就職後に向けたテーマ学習⑨	保育者として社会人としてのマナー、振り返りシート作成(山口しごとC職員)				
	12	就職試験・就職後に向けたテーマ学習⑩	現代アートによる演習、振り返りシート作成(市美術館学芸員)				
	13	就職試験・就職後に向けたテーマ学習⑪	ネット社会の被害者・加害者にしないために、振り返りシート作成(外部職員)				
	14	就職試験・就職後に向けたテーマ学習⑫	家庭、園、まちを災害から守る、振り返りシート作成(市職員)				
	15	就職試験・就職後に向けたテーマ学習⑬	消費者教育、振り返りシート作成(市職員)				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない							
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分) (予習)キャリア教育でこれまで学修してきたことをもう一度復習しておきましょう。 (復習)学んだことを、就職試験や就職後の仕事に生かせるよう準備しましょう。							
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。							
【アクティブラーニングの授業手法】 グループ学習やペア学習時には積極的に関わり発言しましょう。							
【課題等への対応】 課題の評価の確認には個別に対応します。							
【指定教科書】 なし				【参考書等】 「あなたの子育てを支援します(令和5年度)」(下関市こども未来部)、ネイチャーゲーム入門講座(日本シェアリングネイチャー協会)など			

保 育 学 科 2 年

専 門 教 育 科 目

(保育に関する科目)

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No. 8

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
子ども家庭支援論 HC2105C	◇ 秋枝 研二	単 独	L	必修 選択 2	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の本質・目的に関する科目				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 児童虐待やDVの増加など現代社会においては家族による子育て力の低下が見られます。保育所をはじめ児童福祉機関は、その不安定な家庭を支援する上で重要な役割を担っていることを理解し、その支援の在り方を学びます。			【成績の評価方法】 定期試験 60% 小レポート 20% 授業への参加度 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・子育て家族を取り巻く社会状況について理解する。 ・子育て機関の種類や役割を把握する。 ・家庭支援を行う時の基本的な態度や方法について学ぶ。 ・関係機関との連携の在り方について学ぶ。			DPとの関連(大○、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 ◎			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	家庭支援の必要性①	現代社会の状況と課題			
	2	家庭支援の必要性②	家庭を取り巻く状況			
	3	家庭支援の必要性③	保育所保育指針における家庭支援			
	4	子育て支援機関①	県や市町等の支援機関			
	5	子育て支援機関②	社会福祉法人やNPO等の支援機関			
	6	家庭支援の在り方①	支援者としての基本的態度			
	7	家庭支援の在り方②	障がい児のいる家庭への支援①			
	8	家庭支援の在り方③	障がい児のいる家庭への支援②			
	9	家庭支援の在り方④	要保護児童のいる家庭への支援①			
	10	家庭支援の在り方⑤	要保護児童のいる家庭への支援②			
	11	ソーシャルワーク①	ソーシャルワークの定義と要素			
	12	ソーシャルワーク②	ソーシャルワークの過程			
	13	ソーシャルワーク③	在宅福祉、共生社会の推進			
	14	ソーシャルワーク④	関係機関との連携			
	15	まとめ	家庭支援の要点			
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週2時間程度) (予習)授業終了後次回のテーマを示すので、自分で調べておきましょう。 (復習)配布した資料をふり返り、要点をまとめておきましょう。						
【オフィスアワー】木曜日14時30分～15時、授業終了後申し出ること。						
【アクティブラーニングの授業手法】数回、事例をもとにグループ討議を行います。 順番を決め、1人1回社会福祉に関連したニュースを自分で調べて発表する。						
【課題等への対応】 試験結果の確認は個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 植木信一 編著「子ども家庭福祉」(建帛社)、各行政機関発行の統計資料集			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	
子ども家庭支援の心理学	山脇 寛子	単 独	L	必修 選択 2	1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育
HC2202C						<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
科目(区分)	保育に関する科目					教員の免許取得のための 選択科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の対象の理解に関する科目					保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、生涯発達と初期体験の重要性への理解を深めるとともに、家庭や家族への理解、子育て家庭が抱える現状や課題等についても学びます。また、子どもの精神保健についても学び、現代の子育て状況と課題を包括的に捉える視点を習得するため、時事問題等について積極的に取り入れていきます。☆臨床現場、教育現場でのカウンセリング及び心理教育経験を生かし、コミュニケーションを重視した授業を行います。			【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・生涯発達に関する基礎的な知識を修得し、初期体験の重要性について理解する。 ・家族や家庭の意義や機能を理解する。 ・親子関係や家族関係の多様化を理解し、家庭を包括的に捉える視点を修得する。 ・子育て家庭を取り巻く現代の社会状況とその課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		◎	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		○	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	オリエンテーション	授業概要説明、生涯発達とは			
	2	乳幼児期の発達①	新生児期および乳幼児期の運動発達			
	3	乳幼児期の発達②	幼児期の社会性や言語等の発達、初期体験の重要性			
	4	学童期の発達	学童期の認知面や社会性の発達、乳幼児から学童期への移行プロセス			
	5	青年期の発達	青年期の認知面や自己の発達、対人関係の変化			
	6	成人期・老年期の発達	築き上げるキャリアや家族について、中年期危機、超高齢社会			
	7	家族・家庭の意義と機能	家族の定義や機能の変化			
	8	親子関係・家族関係の理解	家族ライフサイクル論と家族システム論、親子・家族関係への円環的理解			
	9	子育ての経験と親としての育ち	子どもをもつことについて、子育てを支える仕組み			
	10	子育てを取り巻く現状と課題	出産や子育てを取り巻く社会的状況			
	11	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースとは、ダブルケアの実態			
	12	多様な家庭とその理解	「家庭」の多様化、ステップファミリー、特別な配慮を必要とする家庭			
	13	子どもの生活・生育環境とその影響	子どもの生育環境、環境の影響を受ける子どもたち			
	14	子どもの心の健康にかかわる問題	子どもの精神保健、発達障害			
	15	まとめ	家庭支援について、授業の振り返り			
■定期試験 □その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)各回の講義内容に目を通し、関連する事柄や問題に関して自ら調べる等の取組みを行いましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 実習やボランティア活動での経験をもとに、ディスカッションを行う。						
【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、白河桂子・福丸由佳編集「子ども家庭支援の心理学」(中央法規)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.10

授業科目名 発達心理学Ⅱ (子どもの理解と援助) HC2203C	担当教員名 山脇 寛子	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 選択 1	開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の対象の理解に関する科目				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、「発達心理学Ⅰ(保育の心理学)」の内容を踏まえ、子どもの社会性の発達や、人との関わり方を学びます。子ども達を取り巻く環境や、自分自身の子ども観や保育観について考える内容も含まれます。学生用教育リソースを活用した講義も行い、子ども特有の感覚や認識等を疑似体験し、それらの体験を通して子ども達への関わりへの理解を深めます。 ☆臨床現場、教育現場でのカウンセリング及び心理教育経験を生かし、コミュニケーションを重視した授業を行います。			【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 課題 30% 発表 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・発達段階ごとの心身の成長過程を理解する。 ・発達段階に即した関わりについて、関心を深める。 ・自身が持つ子ども観や保育観について自己理解を深め、実践場面への意欲を高める。 ・現代の子育て環境や社会情勢等、幅広い知識や視野を持って実践を考える力を養う。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	オリエンテーション	授業内容や受講時の注意事項等説明、発達に伴う援助の変化				
2	発達段階と援助	子どもの発達とそれに伴う援助や課題				
3	日常生活の中でみる発達①	子どもの視覚機能、チャイルドビジョン体験(教育リソース活用:NPO法人CAPセンター・JAPAN)				
4	グループ学習 準備①	実習を振り返りテーマに沿った体験を思い出して再現するためのシナリオ作り				
5	グループ学習 準備②	実習を振り返りテーマに沿った体験を思い出して再現するためのシナリオの完成、発表練習				
6	グループ学習 発表①	発表最終打合せ、グループ別に発表、シェアリング、改善点の検討				
7	グループ学習 発表②	グループ別に発表、シェアリング、改善点の検討				
8	グループ学習 振り返り	発表を振り返り改善点をまとめる				
9	日常生活の中でみる発達②	子どもの記憶、幼児性健忘、トラブルの聞き取りにおける注意点				
10	日常生活の中でみる発達③	向社会的行動、自己制御				
11	障がいとは	障がいとは何か、種類や原因、障がいを受け入れるとは				
12	ストレスと子ども達	ストレスの仕組み、ストレス反応の種類と対応、援助者自身のストレス				
13	就学に向けて	発達の連続性、就学時にみられる問題、スムーズな移行				
14	子どもと保護者に向き合う自分を見つめる	子ども・保護者の目に映る自分、自己理解				
15	まとめ	授業内容の振り返り				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 ■課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)各回の講義内容に目を通し、関連する事柄や問題に関して自ら調べる等の取組みを行いましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 実習やボランティア活動での経験をもとにグループワークを行う。						
【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 沼山博・三浦主博「子どもとかかわる人のための心理学」(萌文書林)、長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子「保育の心理を学ぶ」(ななみ書房)			

2023年度 授業計画

保育学科 No.11

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	
臨床心理学	山脇 寛子	単 独	S	必修 選択 2	1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育
HC2204C						<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
科目(区分)	保育に関する科目					教員の免許取得のための 選択科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の対象の理解に関する科目					保育士の資格取得のための 選択科目
【授業の概要】 この授業では、援助職に就く者として知っておくべき精神疾患や、その基本的な対応方法について学んでいきます。他者を精神的に支えるための知識や技術の基本について学び、柔軟な対応や危機管理についても理解を深めていきます。 ☆臨床現場、教育現場でのカウンセリング及び心理教育経験を生かし、コミュニケーションを重視した授業を行います。			【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・臨床心理学の各理論や療法を学び、人のこころについての多角的な捉え方を理解する。 ・カウンセリングの基本姿勢等を学習し、柔軟な対応や広い視野の必要性を理解する。 ・様々な問題を抱える人々の実情を知り、援助者に求められる姿勢や知識を身に付ける。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		◎	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		○	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	オリエンテーション	授業内容や受講時の注意事項等説明、臨床とは			
	2	臨床心理学の歴史	臨床心理学の歴史、身近な臨床心理学			
	3	心理療法①	精神分析的な心理療法			
	4	心理療法②	クライエント中心療法、カウンセリングマインド			
	5	心理療法③	行動療法、認知行動療法			
	6	心理療法④	家族療法、遊戯療法			
	7	精神疾患の理解と対応①	統合失調症、投薬治療の重要性、家族の支援			
	8	精神疾患の理解と対応②	気分障害、周囲に求められる理解と対応			
	9	精神疾患の理解と対応③	不安障害、周囲に求められる理解と対応			
	10	精神疾患の理解と対応④	パーソナリティ障害、周囲に求められる理解と対応			
	11	精神疾患の理解と対応⑤	摂食障害、PTSD、周囲に求められる理解と対応			
	12	精神疾患の理解と対応⑥	愛着障害、性同一性障害、周囲に求められる理解と対応			
	13	基本的なカウンセリング技術	カウンセリングマインド、傾聴、共感			
	14	緊急時の対応	緊急対応とは、回復への過程、二次的な傷つき			
	15	まとめ	授業内容の振り返り			
■定期試験 □その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習)各回の講義内容に目を通し、関連する事柄や問題に関して自ら調べる等の取組みを行いましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 学んだ内容と現場への活かし方についてディスカッションを行う。						
【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 沼山博・三浦主博「子どもとかかわる人のための心理学」(萌文書林)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.12

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	
子どもの保健	◇ 鈴木 雅子	オムニバス	L	必修 2 選択	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
HB2205KC					<input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の対象の理解に関する科目				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、子どもの心身両面の健康増進を図ることの意義を理解します。そのうえで、子どもの身体発育や生理機能の特性・発達、健康状態とその把握、疾病とその予防・対応など、保育における保健的対応に必要な基礎的事項を学びます。			【成績の評価方法】 定期試験 50% レポート 50%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・子どもの身体的な発育・発達とその保健について理解する。 ・子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 ・子どもの疾病とその予防及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎			
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎			
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○			
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 △			
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	子どもの心身の健康と保健の意義①	生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的			
	2	子どもの心身の健康と保健の意義②	健康の概念と健康指標			
	3	子どもの心身の健康と保健の意義③	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題			
	4	子どもの心身の健康と保健の意義④	地域における保健活動と子ども虐待防止			
	5	子どもの身体発育・発達と保健①	身体発育および運動機能の発達と保健			
	6	子どもの身体発育・発達と保健②	生理機能の発達と保健			
	7	子どもの心身の健康状態その把握①	健康状態の観察及び心身の不調等の早期発見			
	8	子どもの心身の健康状態その把握②	発育・発達の把握と健康診断			
	9	子どもの心身の健康状態その把握③	保護者との情報共有			
	10	子どもの疾病の予防及び適切な対応①	主な疾病の特徴①(新生児の病気、先天性の病気)			
	11	子どもの疾病の予防及び適切な対応②	主な疾病の特徴②(循環器、呼吸器、血液、消化器の病気)			
	12	子どもの疾病の予防及び適切な対応③	主な疾病の特徴③(アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気)			
	13	子どもの疾病の予防及び適切な対応④	主な疾病の特徴④(脳の病気、その他の病気)			
	14	子どもの疾病の予防及び適切な対応⑤	主な疾病の特徴⑤(感染症)			
	15	子どもの疾病の予防及び適切な対応⑥	子どもの疾病の予防と適切な対応			
■ 定期試験 ■ その他試験(□ 筆記 □ 実技 □ 口頭試問 □ 発表 ■ 課題提出 □ その他) □ 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週約90分程度) (予習) シラバスに沿って、実習記録を読み直しておきましょう。 (復習) 疑問点があれば、その場ですぐ質問しましょう。						
【オフィスアワー】 質問等がある場合、授業の前後で対応します。						
【アクティブラーニングの授業手法】 壁新聞の作成。健康について自分と小児を対比しましょう。子どもの様子からみえることを話し合ってみる。						
【課題等への対応】 レポート類は添削・採点・発表ののち返却する。						
【指定教科書】 児童育成協会監修 松田博雄・金森三枝編「子どもの保健」(中央法規)			【参考書等】 なし			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	
子どもの健康と安全	◇ 小西 孝子	単 独	S	必修 1 選択	1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育
HB2206KC						<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の対象の理解に関する科目				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、幼児期のことを思い出して、子どもの成長・発達を学びます。 また、社会資源を利用して、ものの見方・考え方を再認し、保育の環境を学びま す。			【成績の評価方法】 定期試験 50% レポート 50%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・子どもの成長・発達に伴う生活を知り、養護について学ぶ。 ・疾病予防や事故防止についての知識を持ち、小児の健康と安全を守ることを 考える。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。		◎	
			保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。		◎	
			保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。		○	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。		○	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助①	子どもの健康と保育の環境				
2	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助②	子どもの保育に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理				
3	保育における健康及び安全管理①	衛生管理				
4	保育における健康及び安全管理②	事故防止および安全対策				
5	保育における健康及び安全管理③	災害への備えと危機管理				
6	子どもの体調不良等に対する適切な対応①	体調不良や障害が発生した場合の対応				
7	子どもの体調不良等に対する適切な対応②	応急措置、救急処置及び救急蘇生法				
8	感染症対策	感染症の集団発生の予防、感染症発生時と罹患後の対応				
9	保育における保健的対応①	保育における保健的対応の基本的考え方				
10	保育における保健的対応②	3歳未満児への対応				
11	保育における保健的対応③	個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾 患等)				
12	保育における保健的対応④	障害のある子どもへの対応				
13	健康及び安全管理の実施体制①	職員間の連携・協働と組織的取組				
14	健康及び安全管理の実施体制②	保育における保健活動の計画及び評価				
15	健康及び安全管理の実施体制③	母子保健・地域保健における自治体との連携 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携				
■ 定期試験 ■ その他試験(□ 筆記 □ 実技 □ 口頭試問 □ 発表 ■ 課題提出 □ その他) □ 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせて週1時間30分程度) (予習)ニュース等で、子どもの現状を日頃より把握しておきましょう。特に、感染・虐待・事故に対する考え方。 (復習)疑問点があれば、その場ですぐ質問しましょう。						
【オフィスアワー】質問等がある場合、授業の前後に受け付けます。						
【アクティブラーニングの授業手法】 子ども時代のふり取りレポート、園だより作成。身体・バイタル測定、KY訓練、発育判断等の演習。						
【課題等への対応】 レポート類は添削・採点・発表ののち返却する。						
【指定教科書】 児童育成協会監修 松田博雄・金森三枝編「子どもの健康と安全」(中央 法規)			【参考書等】 なし			

2023年度 授業計画

保育学科 No.14

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	
子どもの食と栄養	芳賀 絵美子	単 独	S	必修 2 選択	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
HB2207KC					<input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	保育に関する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の対象の理解に関する科目					保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、栄養や調理の基礎を学び、乳児期から思春期までの発育期の栄養の特性と適切な食生活について学びます。また、子どもの健やかな成長を食から考えていくために、保育者として食への関心を深めてください。講義を中心に、演習や実習なども組み込んで進めていきます。演習課題、レポートは提出期限までにきちんと提出してください。 ☆給食管理・衛生管理・集団及び個別栄養指導の経験を生かして授業を進めます。			【成績の評価方法】 定期試験 50% レポート 30% 授業への参加度 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・健康的な生活の基本である食生活の意義や栄養の基本的知識を習得する。 ・調乳実習などを通して、保育現場に必要な調理技術を身につける。 ・養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容などについて理解し、実際の活動に展開できる。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・関連するガイドラインや近年のデータなどを踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内容				
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの食生活の現状				
2	栄養とは何か	バランスよく食べるとは				
3	献立作成・調理の基本	献立作成と調理の基礎知識				
4	乳児期の栄養と食生活①(乳汁栄養)	乳汁栄養の意義と食生活				
5	乳児期の栄養と食生活②(実習)	調乳演習				
6	乳児期の栄養と食生活③(離乳)	離乳の意義と食生活				
7	乳児期の栄養と食生活④(実習)	市販離乳食の試食				
8	幼児期の栄養と食生活①	幼児期の心身の発達と食生活				
9	幼児期の栄養と食生活②	幼児期の食生活の重要性				
10	食育の基本と内容①	保育における食育の意義・目的と基本的な考え				
11	食育の基本と内容②(実習)	食育教室を仮定した幼児のおやつ作成				
12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭や児童福祉施設における食生活の重要性				
13	特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活①	疾病および体調不良のある子どもへの対応				
14	特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活②	食物アレルギーのある子どもへの対応				
15	まとめ	まとめ				
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週2時間程度) (予習)教科書を熟読し、分からない語句などを調べましょう。 (復習)演習課題またはレポートを作成し、提出期限までに提出してください。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 実習においては、ディスカッションを行い、レポートの提出を課題とします。						
【課題等への対応】 演習課題、レポートは添削して返却します。試験結果の確認には、個別に対応します。						
【指定教科書】 太田百合子、堤ちはる「子どもの食と栄養」(羊土社)			【参考書等】 健康増進法、授乳・離乳の支援ガイド等(厚生労働省HP)、食育基本法等(農林水産省HP)			

Subject :Food and Nutrition for childhood

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
社会的養護Ⅱ	◇ 仙石 裕樹	単 独	S	必修 選択 1	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期	<input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期
HC2303C					<input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	保育に関する科目					教員の免許取得のための 選択科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の内容・方法に関する科目					保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、「社会的養護Ⅰ」の内容を踏まえ、社会的養護の現状について、より具体的に学びます。施設養護や里親制度、養子縁組等の環境で育つ子ども達の現状を知り、保育者が果たすべき役割について考えていきます。			【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・社会的養護についての基礎理解を深める。 ・愛着形成や自立支援等社会的養護の内容を学ぶ。 ・実務者としての心構えや技術の基礎を学ぶ。 ・児童虐待事例等を通して子どもの権利について考える。 ・児童相談所等関係機関の役割や連携について学ぶ。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		◎	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		◎	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		△	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		○	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。		○	
【授業計画】						
回数	テーマ	内 容				
1	社会的養護とは	法的根拠、県条例、歴史等				
2	社会的養護の現状①	種別、入所理由、入退所状況等				
3	社会的養護の現状②	社会的背景、保護者との関わり等				
4	養護内容①	日常生活の様子等				
5	養護内容②	愛着形成、行動理解等				
6	養護内容③	自己肯定感、生き立ちの整理等				
7	養護内容④	自立支援、アフターケア等				
8	養護内容⑤	職員としての心構え等				
9	子どもの権利①	子どもの権利条約、児童憲章等				
10	子どもの権利②	児童虐待の実態等				
11	養護内容⑥	アセスメント等				
12	養護内容⑦	職員のチームワーク、スーパーバイズ等				
13	諸機関との連携	児童相談所、要保護児童地域対策協議会等				
14	施設の運営管理	法人組織、勤務時間等				
15	これからの社会的養護	里親委託の推進、家庭的養護の推進等				
■定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習)各回の講義内容に目を通し、関連する事柄や問題に関して自ら調べる等の取組みを行いましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。						
【オフィスアワー】事前に連絡があれば、授業の前後に相談等にのります。						
【アクティブラーニングの授業手法】 事例を用いたグループワークを行う。毎授業ごとに双方向アンケートを実施する。						
【課題等への対応】 試験結果の確認には個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 「みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護」(みらい) 小木曾 宏 宮本 秀樹 鈴木 崇之 編「よくわかる社会的養護内容」(ミネルヴァ書房) 吉田 眞理 編「-演習-社会的養護内容」(萌文書林)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
子育て支援 HC2304C	◇ 田中 浩二	単 独	S	必修 選択 1	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の内容・方法に関する科目				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、「子育て支援」はなぜ必要で大切であるかを学びます。保護者の子育ての支援をすることは保育士の重要な専門性の一つとなります。その際の、保護者との信頼関係の構築や保護者の理解ならびに、指導・助言・援助の方法を学習します。また、グループ演習をしたり、自分の意見を発表したりする場を作りながら授業を進めます。			【成績の評価方法】 定期試験 50% レポート 20% 授業への参加度 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・子どもの最善の利益を知る。 ・子どもの成長の喜びを共有することを知る。 ・保護者の養育力の向上を実現するための基本的な知識を理解していく。 ・保護者を援助する際に必要となる専門的知識の理解を深める。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	子育て支援の意義	保護者に対する保育相談支援の意義を知る				
2	子育て支援の原則	保育相談支援の原則について理解する				
3	保育所の特性	保育の特性と保育士の専門性を生かした支援を知る				
4	子どもの最善の利益と福祉の重視	子どもの最善の利益とは何を指すのかを学ぶ				
5	子どもの成長の喜びの共有	子どもの成長を保護者も保育士も共感する姿勢を学ぶ				
6	保護者の養育力の向上の支援	保護者の抱える課題や悩みなどを理解する				
7	信頼関係を築く保護者とのかかわり方	信頼関係を築くための要素を理解する				
8	信頼関係を築く際の保育者としての資質	援助者(保育者)として自己覚知を理解する				
9	保護者支援の方法と技術	受容、傾聴、共感、褒めるなどを学ぶ				
10	保護者支援の方法と実践①(事例:SNS)	グループに分かれて、事例を基に支援方法を考える①				
11	保護者支援の方法と実践②(事例:怪我・事故)	グループに分かれて、事例を基に支援方法を考える②				
12	保護者支援の方法と実践③(事例:子育て姿勢)	グループに分かれて、事例を基に支援方法を考える③				
13	保護者支援の方法と実践④(事例:障害)	グループに分かれて、事例を基に支援方法を考える④				
14	保護者支援の方法と実践⑤(事例:虐待)	グループに分かれて、事例を基に支援方法を考える⑤				
15	保育相談支援のまとめ	保護者の子育てを支える保育者としての姿勢				
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)「保育指針」を繰り返し読みましょう。資料をクラウド上で公開します。事前に内容を確認しておいてください。 (復習)講義内容のメモをその日のうちに加筆してまとめていきましょう。						
【オフィスアワー】事前に連絡があれば、授業後等で対応します。						
【アクティブラーニングの授業手法】 課題によってグループ討議を行います。						
【課題等への対応】 レポートは添削し返却します。試験結果の確認には、個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 「保育所保育指針」「演習保育相談支援」(萌文書林)			

授業科目名 音楽演習Ⅲ (弾き歌い基礎) HC2307KC	担当教員名 前田 知子 ◇鳥越未加緒	担当形態 複 数	授業方法 S	単位数 必修 選択 1	開 講 時 期 1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の内容・方法に関する科目				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、「音楽演習Ⅱ」で得た技術を深め、保育現場での歌唱指導の技術を高め、学外実習での弾き歌いの実践に向けた準備をします。具体的には、季節の歌をグループレッスンにより練習します。			【成績の評価方法】 定期試験 60% 授業への参加度 20% 実技小テスト 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育現場での子どもの歌、伝承していききたい唱歌・童謡・わらべ歌を歌唱し、伴奏することができる。 ・班毎の発表を行うための準備をコミュニケーションをとりながら工夫することができる。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
回	回数	テーマ	内 容			
	1	6月の歌①	「かたつむり」を練習する			
	2	6月の歌②	「あめふり」を練習する			
	3	6月の歌③	「あめふりくまのこ」を練習する			
	4	6月の歌④	「とけいのうた」を練習する			
	5	6月の歌⑤	「はをみがきましょう」を練習する			
	6	実技小テスト①	6月の歌の弾き歌い実技小テスト			
	7	実習の課題曲①	実習に必要な課題曲の練習をする			
	8	実習の課題曲②	実習に必要な課題曲の練習をする			
	9	夏の季節の歌①	「しゃぼんだま」を練習する			
	10	夏の季節の歌②	「オバケなんてないさ」を練習する			
	11	夏の季節の歌③	「金魚のひるね」を練習する			
	12	実技小テスト②	夏の季節の弾き歌い実技小テスト(発表会形式)			
	13	秋の歌①	「とんぼのめがね」を練習する			
	14	秋の歌②	「どんぐりころころ」を練習する			
	15	秋の歌③	「まつぼっくり」を練習する			
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 ■実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:毎日30分～1時間程度の個人練習) (予習)新しい楽曲の歌詞を覚え、奏法を理解しましょう。唱歌・童謡に興味、関心を持ちましょう。 (復習)課題の練習を日々行いましょう。日頃からしっかりと発声を心がけましょう。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークによって課題曲の練習に取り組み、ロールプレイによって発表を行う。						
【課題等への対応】 演奏の評価を個別に伝え、指導を行う。						
【指定教科書】 (編著者)木村鈴代(著者)岸川洋子・清水加奈絵・平松愛子・吉原美南子・岡本泰寛・中山由里・中川淳一・豊辻晴香・田中美江「あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集第二版」(同文書院)			【参考書等】 「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集」第1巻第2巻(学研)「やさしい弾き歌い75」(音楽之友社)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.18

授業科目名 音楽演習Ⅳ (弾き歌い) HC2308KC	担当教員名 前田 知子 ◇ 鳥越未加緒	担当形態 複 数	授業方法 S	単位数 必修 選択 1	開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の内容・方法に関する科目				保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 この授業では、「音楽演習Ⅲ」で得た技術を深め、保育現場での歌唱指導の技術を高め、学外実習での弾き歌いの実践に向けた準備をします。具体的には、季節の歌をグループレッスンにより練習します。			【成績の評価方法】 定期試験 60% 授業への参加度 20% 実技小テスト 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育現場での子どもの歌、伝承していきたい唱歌・童謡・わらべ歌を歌唱し、伴奏することができる。 ・班毎の発表を行うための準備をコミュニケーションをとりながら工夫することができる。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	10月の歌①	「虫の声」を練習する			
	2	10月の歌②	「やさいもグーチーパー」を練習する			
	3	10月の歌③	「バスごっこ」を練習する			
	4	生活の歌①	「おはよう(あさのうた)」を練習する			
	5	生活の歌②	「おかえりのうた」を練習する			
	6	実技小テスト①	弾き歌い小テスト			
	7	冬の歌①	「たきび」を練習する			
	8	冬の歌②	「おもちゃのチャチャチャ」を練習する			
	9	冬の歌③	「きよしこの夜」を練習する			
	10	生活の歌③	「ハッピーバースデー」を練習する			
	11	実技小テスト②	発表会形式による弾き歌いテスト			
	12	冬の歌④	「ゆき」を練習する			
	13	冬の歌⑤	「まめまき」を練習する			
	14	卒園の歌	「さよならぼくたちのほいくえん(ようちえん)」を練習する			
	15	卒園の歌小テスト	保育行事の設定による弾き歌いテスト			
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:毎日30～1時間程度の個人練習) (予習)新しい楽曲の歌詞を覚え、奏法を理解しましょう。唱歌・童謡に興味、関心を持ちましょう。 (復習)課題の練習を日々行いましょう。日頃からしっかりとした発声を心がけましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークによって課題曲の練習に取り組み、ロールプレイによって発表を行う。						
【課題等への対応】 演奏の評価を個別に伝え、指導を行う。						
【指定教科書】(編著者)木村鈴代(著者)岸川洋子・清水加奈絵・平松愛子・吉原美南子・岡本泰寛・中山由里・中川淳一・豊辻晴香・田中美江「あなたも弾けるやさしい童謡唱歌集第二版」(同文書院)			【参考書等】 「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集」第1巻第2巻(学研)「やさしい弾き歌い75」(音楽之友社)			

Subject :Music Exercise IV (Piano Accompaniment and Song)

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	
国語演習	金 銀英	単 独	S	必修 選択 1	1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育
HC2311KC						<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
科目(区分)	保育に関する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育の内容・方法に関する科目					保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「言葉」について、より深く学び、子どもの発達状況や個性に合わせた援助について考えます。同時に、多様な文章に触れ分析することで、保育者としての基礎的な日本語力を高めることを目標とします。具体的には、目的に適した文章作成する力を身に付け、自己の読解力や表現力を高め、相手を思いやることのできるコミュニケーション力を高めます。			【成績の評価方法】 定期試験 30% レポート 40% 授業への参加度 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・領域「言葉」に記された事項について理解を深める。 ・保育現場での「言葉」によるコミュニケーション力や表現力を修得する。 ・子どもの「言葉」に関する発達を理解し、部分指導計画を考えることができる。 ・様々な文章表現の分析を通じて、客観的に状況を説明できる。 ・文章表現やコミュニケーションについての関心を高める。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	はじめに 一領域「言葉」と言語表現一	保育所保育指針「幼稚園教育要領」認定こども園教育・保育要領に記された領域「言葉」について確認し、本授業の目的を理解する			
	2	領域「言葉」における計画・記録	他領域における「言葉」との関係を検討し、言語環境と状況観察に応じた計画・記録の役割を考える			
	3	言葉の発達と指導・援助計画の作成①	指導・援助計画に適した文体、表現について学ぶ			
	4	言葉の発達と指導・援助計画の作成②	領域「言葉」の「ねらい」に基づいた指導・援助計画について学ぶ			
	5	言葉の発達と指導・援助計画の作成③	指導・援助計画の作成と推敲を通して計画書の書き方を身に付ける			
	6	領域「言語」に関する「遊び」	領域「言語」に関する「遊び」、即ち「ことは遊び」、「ごっこ遊び」などについて学ぶ			
	7	地域連携活動と領域「言葉」	地域の「ブックスタート」、公立図書館主催「おはなし会」等の地域連携運動について学び、保育者の活動について考える			
	8	尊敬表現と謙譲表現	日本語の敬語体系を概観し、保育現場でのコミュニケーションについて考える			
	9	場に適した話し言葉	場面と相手に合わせたコミュニケーションを目指してシチュエーション練習を行う			
	10	地域言語と地域社会	日常で使用する言語と地域社会との繋がりを理解し、保育の現場における地域言語の役割について考察する			
	11	地域言語と保育	地域言語や地域伝統の児童文化財を活用した指導・援助について考える			
	12	「言葉」の発達の把握と援助① 一発声・発音の仕組み一	言語・発声の仕組みを学び、言葉の発達に合わせた援助方法を考える			
	13	「言葉」の発達の把握と援助② 一言語障がい一	「言語障がい」等について学び、発達や個人の特徴に応じたコミュニケーションの方法を考える。			
	14	外国語と領域「言葉」	日本語を母語にしない子どもへの現状と援助について学ぶ			
	15	まとめ	現場における領域「言葉」の教材・児童文化財の研究、保育者の資質向上について考える			
■定期試験 ■その他試験(■筆記 □実技 □口頭試問 □発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予習-1時間程度、復習-1時間半程度) (予習)幼稚園教育要領、保育所保育指針などの領域「言葉」に関する記述を熟読し、日頃から絵本に親しみましょう。 (復習)毎回行う小テストに備えて学習内容を振り返りましょう。適宜、文章作成の課題を出します。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 授業内容に沿って口頭発表やプレゼンテーション、グループワークを行う。						
【課題等への対応】 課題については、課題ごとにGoogle Classroomで明示する。提出した課題は添削後コメントを添えて返却する。 評価に関する確認は、個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、田上貞一郎「保育者になるための国語表現」(萌文書林)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	
保育実習 I	水津 玉美 藤井 智行 他	複数	E	必修 選択 4	1年次□前期 2年次■前期 ■後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
HC2401CR						
科目(区分)	保育に関する科目					教員の免許取得のための 選択科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育実習					保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この実習では、既習の科目で学んだ基礎的理論を基に、保育所・児童福祉施設等の役割や機能、保育士の職務内容や職業倫理、保育について具体的に学びます。現場での実践を通して、自己の保育における計画・記録・自己評価についても理解が深まるよう意識して臨んでください。 ☆主任保育士として、保育実践及び保育士を指導・育成してきた経験を生かして、保育の現場で生きる授業を進めていきます。			【成績の評価方法】 実習施設の評価 80% 実習事後書類等の提出 20%			
【GPA】 前の学期のGPAが1.5以上であること。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育所・児童福祉施設等の役割や機能について具体的に理解する。 ・保育士の役割や職務内容、職業倫理について理解する。 ・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め身に付ける。 ・保育の計画・観察・評価について具体的に理解する。			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		◎	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
実習時期・場所		実習内容・指導内容				
1年次後期 2～3月(10日間) 児童福祉施設等(保育所以外)		<input type="checkbox"/> 児童福祉施設等の役割や機能の理解 <input type="checkbox"/> 施設における保育士の役割、職務内容の理解 <input type="checkbox"/> 子ども(利用者)との関わりを通しての理解 <input type="checkbox"/> 職業倫理についての理解				
2年次前期 8月(10日間) 保育所		<input type="checkbox"/> 保育所の役割や機能の理解 <input type="checkbox"/> 保育所における保育士の役割、職務内容の理解と実践 <input type="checkbox"/> 観察・関わりを通しての子ども理解 <input type="checkbox"/> 職業倫理についての理解 <input type="checkbox"/> 保育の計画・観察・評価についての具体的な理解と実践				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 ■実技 □口頭試問 ■発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)実習に必要なものは事前に準備し、実習に向けての心構えをしっかりと持ち、実習に臨むようにしましょう。 (復習)実習後は事後指導を受け、反省を今後の保育実践に生かすよう自己の課題を明確にしましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 保育現場での実践において、訪問などを通して直接的な指導を行う。						
【課題等への対応】 実習に関する諸手続きや実習日誌の添削指導など、実習内容全般においてきめ細かく個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 「学外実習の手引き」(本学) 「実習の手引き」(北九州児童養護施設実習連絡会)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
保育実習Ⅱ	水津 玉美 藤井 智行 他	複 数	E	必修 選択 2	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
HC2402CR						
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育実習				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 「保育実習Ⅰ」で学んだ乳幼児の発達段階、生活や遊びの様子、保育士としての役割や具体的な援助方法について更に深め、実践して学んでいきます。保育実習を通してよりいっそう「保育士として必要な資質・能力・技術」を習得していきましょう。 ☆主任保育士として、保育実践及び保育士を指導・育成してきた経験を生かして、保育の現場で生きる授業を進めていきます。			【成績の評価方法】 実習施設の評価 80% 実習事後書類等の提出 20%			
【GPA】 前の学期のGPAが1.5以上であること。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育士の役割や職務内容、子どもとの関わりについて、より具体的に総合的に理解する。 ・既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育技術や計画・記録・評価のより実践的な力を身に付ける。 ・自己の課題を明確にする。			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		◎	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
実習時期・場所		実習内容・指導内容				
2年次前期 9月(10日間)		○保育士の役割や職務内容の実践				
保育所		○指導計画立案・記録・評価の実践・向上				
		○子どもとの関わり・保育技術の向上				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)実習に必要なものは事前に準備し、実習に向けての心構えをしっかりと持ち、実習に臨むようにしましょう。 (復習)実習後は事後指導を受け、反省を今後の保育実践に生かすよう自己の課題を明確にしましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 保育現場での実践において、訪問などを通して具体的、直接的な指導を行う。						
【課題等への対応】 実習に関する諸手続きや実習日誌の添削指導など、実習内容全般においてきめ細かく個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 「学外実習の手引き」(本学)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	
保育実習Ⅲ	水津 玉美 藤井 智行 他	複 数	E	必修 選択 2	1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育
HC2403CR						<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
科目(区分)	保育に関する科目					教員の免許取得のための 選択科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育実習					保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 「保育実習Ⅰ」で体験的に学んだ施設での様々な理解に基づいて、個別支援のあり方についてより具体的に学びます。実習を通して、施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得することを目的として実習に臨むようにしてください。 ☆主任保育士として、保育実践及び保育士の指導経験を生かして、保育の現場で生きる授業を進めます。			【成績の評価方法】 実習施設の評価 80% 実習事後書類等の提出 20%			
【GPA】 前の学期のGPAが1.5以上であること。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・施設における支援の実際を具体的に理解する。 ・施設における保育士の業務内容や職業倫理について実践に結び付けて理解する。 ・自己の課題を明確化する。			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		◎	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		◎	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		○	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
実習時期・場所			実習内容・指導内容			
2年次前期 9月(10日間)			○保育士の業務内容の実践			
児童福祉施設(保育所以外)			○支援の実践と資質・能力・技術の習得			
			○自己の課題の明確化			
□定期試験 ■その他試験(□筆記 ■実技 □口頭試験 ■発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)実習に必要なものは事前に準備し、実習に向けての心構えをしっかり持ち、実習に臨むようにしましょう。 (復習)実習後は事後指導を受け、反省を今後の保育実践に生かすよう自己の課題を明確にしましょう。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 保育現場(施設)での実践において、訪問などを通して具体的、直接的な指導を行う。						
【課題等への対応】 実習に関する諸手続きや実習日誌の添削指導など、実習内容全般においてきめ細かく個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 「学外実習の手引き」(本学) 「実習の手引き」(北九州児童養護施設実習連絡会)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	
保育実習指導Ⅱ	水津 玉美 藤井 智行	複 数	S	必修 選択 1	1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育
HC2405C						<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
科目(区分)	保育に関する科目					教員の免許取得のための 選択科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育実習					保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 保育実習の意義と目的の理解を深めるとともに、実習と既習の教科内容との関連性を踏まえ、保育実践力を培っていきます。保育実習における計画・実践・記録・反省によって現場での実践的な力を高め、自信を持って保育現場で実践できるように指導していきます。また、施設評価と自己評価から課題を明確にし、自己の向上心を育てていきます。実習指導案の提出を課題提出としますので期日までに必ず仕上げてください。毎回、「実習の手引き」を持参して下さい。 ☆主任保育士として保育実践、新人保育士指導や育成の経験を授業に反映します。			【成績の評価方法】 授業への参加度 20% 課題提出 60% 事後アンケート 20%			
【GPA】 前の学期のGPAが1.5以上であること			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・年齢に合わせた保育内容について学び、計画する力を培う。 ・子どもとの関わり方や表現技術を生かした保育実践力を培う。 ・計画・観察・記録・評価について、より実践的な力を身に付ける。 ・実習に必要な書類の作成や準備について具体的に学び実践する。 ・実習の事後における自己評価について学び、保育に関する課題や認識を明確にする力を培う。			社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎			
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○			
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○			
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎			
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	授業の概要・保育実習Ⅰ振り返り	概要「保育実習Ⅰ」の反省、評価、自己課題				
2	保育園での実習内容について	保育実習の心構えと準備・保育園での実習内容				
3	様々な施設の保育の特徴について	様々な施設と教育方針違いの理解				
4	観察と記録に基づく保育の理解	子ども理解と観察、実習日誌や指導案の項目のつながり				
5	事前オリエンテーションについて 実習日誌の書き方について①	事前オリエンテーション・実習日誌の具体的な記入方法①				
6	実習日誌の書き方について②	実習日誌の具体的な記入方法②				
7	指導計画の作成と実践	指導計画の作成と実践内容の理解と方法				
8	3歳未満児クラスでの実習について	3歳未満児クラスの1日の流れ 発達の特徴と関わり方、DVD視聴				
9	指導案(3歳未満児)について①	3歳未満児の指導案の立案、指導案に基づいた保育の実践				
10	指導案(3歳未満児)について②	3歳未満児の指導案に基づいた保育の実践(グループワーク)				
11	指導案(3歳以上児)について①	各年齢に応じた指導案作成のポイント 模擬保育の指導案作成①				
12	指導案(3歳以上児)について②	各年齢に応じた指導案作成のポイント 模擬保育の指導案作成②				
13	指導案(3歳以上児)について③	各年齢に応じた指導案作成のポイント 模擬保育の指導案作成③				
14	保育士の職業倫理・実習の留意事項他	子どもの人権と守秘義務 安全管理・危機管理・ガイドライン				
15	実習の総括の方法、自己評価と課題の捉え方 最終注意事項	実習事後における自己評価、最終確認事項				
□定期試験 ■その他試験(□筆記 ■実技 □口頭試問 ■発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)保育所実習に向けて教材・児童文化財の準備を行います。 (復習)授業で学んだものに加え各自で研究してレポーターを増やすようにしてください。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 模擬保育等の実践を通して、ロールプレイングや、グループディスカッションを行い理解を深める。						
【課題等への対応】 実習に関する諸手続きや実習日誌の添削指導、事前事後の学習など、きめ細かく個別に対応する。						
【指定教科書】 「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」(わかば社)				【参考書等】 「学外実習の手引き」(本学)		

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
保育実習指導Ⅲ	水津 玉美 藤井 智行	複 数	S	必修 選択 1	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
HC2406C						
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育実習				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 保育実習の意義と目的の理解を深めるとともに、実習と既習の教科内容との関連性を踏まえ、保育実践力を培います。福祉職としての保育士、施設保育士としての専門性や職業倫理について学び、自己の課題を明確にして現場で生かせるように保育実践力をつけていきます。「実習日誌の書き方」を課題提出としますので期日までに必ず仕上げてください。毎回、「実習の手引き」を持参して下さい。 ☆主任保育士として保育実践、新人保育士指導や育成の経験を授業に反映します。			【成績の評価方法】 授業への参加度 20% 課題提出 60% 事前指導・事後アンケート 20%			
【GPA】 前の学期のGPAが1.5以上であること			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・児童福祉施設(保育所以外)における、支援の実際について総合的に学ぶ。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 ・実習の事後における自己評価について学び、保育に関する課題や認識を明確にする力を培う。						
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	授業の概要・保育実習Ⅰ振り返り	概要「保育実習Ⅰ」の反省、評価、自己課題				
2	保育園での実習内容について	保育実習の心構えと準備・保育園での実習内容				
3	様々な施設の保育の特徴について	様々な施設と教育方針違いの理解				
4	観察と記録に基づく保育の理解	子ども理解と観察、実習日誌や指導案の項目のつながり				
5	事前オリエンテーションについて 実習日誌の書き方について①	事前オリエンテーション・実習日誌の具体的な記入方法①				
6	実習日誌の書き方について②	実習日誌の具体的な記入方法②				
7	指導計画の作成と実践	指導計画の作成と実践内容の理解と方法				
8	3歳未満児クラスでの実習について	3歳未満児クラスの1日の流れ 発達の特徴と関わり方、DVD視聴				
9	指導案(3歳未満児)について①	3歳未満児の指導案の立案、指導案に基づいた保育の実践				
10	指導案(3歳未満児)について②	3歳未満児の指導案に基づいた保育の実践(グループワーク)				
11	指導案(3歳以上児)について	各年齢に応じた指導案作成のポイント 模擬保育の指導案作成				
12	入所児(者)・利用児(者)について	実習施設での入所児(者)・利用児(者)の理解と関わり方				
13	児童福祉施設における実習の留意点	児童福祉施設に共通した特徴と留意点				
14	保育士の職業倫理・実習の留意事項他	実習生としての心構え・子どもの人権・守秘義務・安全管理と危機管理の視点、(ガイドライン)				
15	自己評価と課題の捉え方	施設実習保育士としての学び、自己課題、今後の学習の目標や取り組み				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□ 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)施設実習について調べ、入所児(者)・利用児(者)との接し方について考え、具体的に準備します。 (復習)「保育実習Ⅰ」の児童福祉施設等での反省に基づき、実習に向けての準備を進めていこうにしましょう。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークやグループディスカッションを行い、施設におけるより専門的な援助ができるよう視野を広げる。						
【課題等への対応】 実習に関する諸手続きや実習日誌の添削指導、事前事後の学習など、きめ細かく個別に対応する。						
【指定教科書】 「施設実習パーフェクトガイド」(わかば社)			【参考書等】 「学外実習の手引き」(本学) 「実習の手引き」(北九州児童養護施設実習連絡会)			

授業科目名 保育実践演習Ⅱ (創作・劇表現) HB2502C	担当教員名 藤井 智行	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 1 選択	開 講 時 期 1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	教科に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	総合演習				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図る。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、オリエンテーション			
	2	下関市における児童福祉施設について	地域の児童福祉施設の現状について学ぶ			
	3	施設間の連携について	保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連携について考える			
	4	施設間連携と保育者の役割について	保育者と児童福祉施設の連携について考える			
	5	施設見学	市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に考える			
	6	見学後の振り返り①	市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッションを通じて学びを深める			
	7	見学後の振り返り②	見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う			
	8	地域連携について(まとめ)	施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える			
	9	子ども理解について	「初対面」「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」について理解を深める			
	10	世代間交流について①	世代間交流と保育士に求められる資質について考える			
	11	世代間交流について②	保育士に求められる社会性について考える			
	12	子どもと保護者の援助について①	双方を援助するための方法について考える			
	13	子どもと保護者の援助について②	双方を援助するための技術について考える			
	14	子どもと保護者の援助について③	双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認を行う			
	15	まとめ	自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表用の用紙記入)			
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つめ、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.25-2

授業科目名 保育実践演習Ⅱ (身体表現) HB2502C	担当教員名 渡邊 義明	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 1 選択	開 講 時 期 1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	教科に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	総合演習				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20%			
			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		◎	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図る。						
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、オリエンテーション			
	2	下関市における児童福祉施設について	地域の児童福祉施設の現状について学ぶ			
	3	施設間の連携について	保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連携について考える			
	4	施設間連携と保育者の役割について	保育者と児童福祉施設の連携について考える			
	5	施設見学	市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に考える			
	6	見学後の振り返り①	市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッションを通じて学びを深める			
	7	見学後の振り返り②	見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う			
	8	地域連携について(まとめ)	施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える			
	9	子ども理解について	初対面「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」について理解を深める			
	10	世代間交流について①	世代間交流と保育士に求められる資質について考える			
	11	世代間交流について②	保育士に求められる社会性について考える			
	12	子どもと保護者の援助について①	双方を援助するための方法について考える			
	13	子どもと保護者の援助について②	双方を援助するための技術について考える			
	14	子どもと保護者の援助について③	双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認を行う			
	15	まとめ	自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表用の用紙記入)			
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つめ、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市)			

授業科目名 保育実践演習Ⅱ (音楽表現) HB2502C	担当教員名 前田 知子	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 1 選択	開 講 時 期 1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	教科に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	総合演習				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20%			
			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		◎	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図る。						
【授業計画】						
回次	テーマ	内 容				
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、オリエンテーション				
2	下関市における児童福祉施設について	地域の児童福祉施設の現状について学ぶ				
3	施設間の連携について	保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連携について考える				
4	施設間連携と保育者の役割について	保育者と児童福祉施設の連携について考える				
5	施設見学	市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何かできるのか実践的に考える				
6	見学後の振り返り①	市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッションを通じて学びを深める				
7	見学後の振り返り②	見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う				
8	地域連携について(まとめ)	施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える				
9	子ども理解について	「初対面」「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」について理解を深める				
10	世代間交流について①	世代間交流と保育士に求められる資質について考える				
11	世代間交流について②	保育士に求められる社会性について考える				
12	子どもと保護者の援助について①	双方を援助するための方法について考える				
13	子どもと保護者の援助について②	双方を援助するための技術について考える				
14	子どもと保護者の援助について③	双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認を行う				
15	まとめ	自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表用の用紙記入)				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つめ、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.25-4

授業科目名 保育実践演習Ⅱ (保育内容表現) HB2502C	担当教員名 水津 玉美	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 1 選択	開 講 時 期 1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	保育に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	総合演習				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。					【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20%	
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図る。					DPとの関連(大◎、中○、小△)	
					社会人としての幅広い教養を身に付けている。	○
					保育に関する専門的な知識を身に付けている。	○
					保育に関する専門的な技能を身に付けている。	◎
					状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。	◎
					自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。	△
【授業計画】						
回 数	テ マ	内 容				
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、オリエンテーション				
2	下関市における児童福祉施設について	地域の児童福祉施設の現状について学ぶ				
3	施設間の連携について	保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連携について考える				
4	施設間連携と保育者の役割について	保育者と児童福祉施設の連携について考える				
5	施設見学	市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に考える				
6	見学後の振り返り①	市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッションを通じて学びを深める				
7	見学後の振り返り②	見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う				
8	地域連携について(まとめ)	施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える				
9	子ども理解について	「初対面」「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」について理解を深める				
10	世代間交流について①	世代間交流と保育士に求められる資質について考える				
11	世代間交流について②	保育士に求められる社会性について考える				
12	子どもと保護者の援助について①	双方を援助するための方法について考える				
13	子どもと保護者の援助について②	双方を援助するための技術について考える				
14	子どもと保護者の援助について③	双方の援助に必要な方法・技術をふまえて、自己の資質能力の確認を行う				
15	まとめ	自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表用の用紙記入)				
□ 定期試験 ■ その他試験(□ 筆記 ■ 実技 □ 口頭試問 ■ 発表 ■ 課題提出 □ その他) □ 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。						
【指定教科書】 なし					【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つめ、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市)	

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
保育実践演習Ⅱ (特別支援教育研究) HB2502C	山本 正俊	単 独	S	必修 1 選択	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	教科に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	総合演習				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを通じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20%			
			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		○	
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図る。			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		◎	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、オリエンテーション			
	2	下関市における児童福祉施設について	地域の児童福祉施設の現状について学ぶ			
	3	施設間の連携について	保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連携について考える			
	4	施設間連携と保育者の役割について	保育者と児童福祉施設の連携について考える			
	5	施設見学	市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に考える			
	6	見学後の振り返り①	市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッションを通じて学びを深める			
	7	見学後の振り返り②	見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う			
	8	地域連携について(まとめ)	施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える			
	9	子ども理解について	初対面「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」について理解を深める			
	10	世代間交流について①	世代間交流と保育士に求められる資質について考える			
	11	世代間交流について②	保育士に求められる社会性について考える			
	12	子どもと保護者の援助について①	双方を援助するための方法について考える			
	13	子どもと保護者の援助について②	双方を援助するための技術について考える			
	14	子どもと保護者の援助について③	双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認を行う			
	15	まとめ	自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表用の用紙記入)			
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見つめ、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計画」(下関市)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.25-6

授業科目名 保育実践演習Ⅱ (心理研究) HB2502C	担当教員名 山脇 寛子	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 1 選択	開 講 時 期 1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	教科に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	総合演習				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、保育現場だけでなく、保育を取り巻く現代的な課題について 考え、実践的に検討を行います。具体的には、1・2年生合同グループ制の少 人数授業・討論などを行い、市内のこども館など児童福祉施設の見学などを通 じて子どもや保護者の援助技術・方法等について実践的に学びます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 活動内容 30% 発表 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育に関する科目縦断的な学習能力を習得する。 ・保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 ・問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 ・保育者に必要な知識・技能について考え、自らの学びを振り返り、向上を図 る。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。		○	
			保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。		◎	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
回数	テーマ	内 容				
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、オリエンテーション				
2	下関市における児童福祉施設について	地域の児童福祉施設の現状について学ぶ				
3	施設間の連携について	保育所・幼稚園・こども園・小学校と児童福祉施設(こども館)との連 携について考える				
4	施設間連携と保育者の役割について	保育者と児童福祉施設の連携について考える				
5	施設見学	市内の児童福祉施設を見学し、保育者に何ができるのか実践的に 考える				
6	見学後の振り返り①	市内の児童福祉施設を見学後、ワークシート記入やディスカッション を通じて学びを深める				
7	見学後の振り返り②	見学後の振り返りを通じて考え、グループ討論やポスター発表を行う				
8	地域連携について(まとめ)	施設見学を通じて得た成果を振り返り、自己の資質と役割を考える				
9	子ども理解について	「初対面」「人見知り」などのキーワードをもとに「子ども理解」につい て理解を深める				
10	世代間交流について①	世代間交流と保育士に求められる資質について考える				
11	世代間交流について②	保育士に求められる社会性について考える				
12	子どもと保護者の援助について①	双方を援助するための方法について考える				
13	子どもと保護者の援助について②	双方を援助するための技術について考える				
14	子どもと保護者の援助について③	双方の援助に必要な方法・技術をふまえ、自己の資質能力の確認 を行う				
15	まとめ	自己の資質能力を振り返り、今後の課題を確認する(ポスター発表 用の用紙記入)				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□ 筆記 ■ 実技 □ 口頭試問 ■ 発表 ■ 課題提出 □ その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃の生活や実習等で相手に伝える方法・技術を常に探しましょう。また、地元の行事や施設の把握に努めましょう。 (復習)研究内容を深め、実践力を高めるため、その時間の学習内容をまとめ、ファイルに整理しましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 与えられた課題によりグループワークを行い、発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 レポートを添削し返却する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】寺田恭子ほか編「保育・教職実践演習:わたしを見 つめ、求められる保育者になるために」(ミネルヴァ書房)、下関 市「For Kids プラン2020 下関市子ども・子育て支援事業計 画」(下関市)			

保 育 学 科 2 年

専 門 教 育 科 目

(教職に関する科目)

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
教育行政 HC3105KC	藤澤 正信	単 独	L	必修 選択 2	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	教職に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	教育の基礎的理解に関する科目				保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 この授業では、学校教育に関する制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関する諸課題について理解します。学校と地域との連携及び意義について理解します。また、学校安全への具体的な取組みについても学びます。					【成績の評価方法】 定期試験 60% レポート 10% 授業への参加度 30%	
【授業のテーマ及び到達目標】 ・公教育の理念・制度的原理について理解する。 ・山口県の教育と人材育成の特色について理解する。 ・我が国の教育制度改革について理解する。 ・教育課程について理解する。 ・保育行政について理解する。 ・近年の教育政策の動向について理解する。 ・学校(園)と地域との連携について理解する。 ・学校安全への対応について理解する。					DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 △ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 ○	
【授業計画】						
回次	テーマ	内 容				
1	オリエンテーション	本学の教育の理念、授業のねらい・進め方、教育制度を学ぶ意義について				
2	教育制度の変遷①	江戸時代の教育制度と山口県の教育について				
3	教育制度の変遷②	戦前の教育制度について				
4	教育制度の変遷③	戦後の教育制度について(日本国憲法、教育基本法)				
5	教育制度の変遷④	戦後の教育制度について(学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則)				
6	幼稚園教育要領について①	改訂の経緯と内容について				
7	幼稚園教育要領について②	保育所保育指針や認定子ども園教育・保育要領の改訂について				
8	幼稚園教育要領について③	「環境を通して行う教育」の実践例について				
9	教育職員免許法について	教育職員免許法の内容、保育士や教員の再登録の厳格化の経緯について				
10	教育委員会制度の改正について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正の経緯と内容について				
11	学校安全について①	大阪教育大学附属池田小学校事件、学校安全の必要性について				
12	学校安全について②	教育実習中のヒヤリハット事例や幼稚園で発生した賠償事故例について				
13	学校評価について①	学校安全と「開かれた学校づくり」について				
14	学校評価について②	幼稚園児保護者アンケートの作成(google formsを使用)				
15	諸外国の幼児教育について	イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ諸国の幼児教育の特色について				
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週4時間) (予習) 次回の学習内容を把握するために事前プリントを提出し、次回の授業に備えましょう。(2時間) (復習) 毎時間配付する学習プリントを基に、本時のねらいが達成できているかを必ずその日のうちに確認しましょう。(2時間)						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 毎回の授業のグループ討議で、最低1回は発言できるようにしましょう。						
【課題等への対応】 試験結果の確認には個別に対応するとともに、課題については添削し返却します。						
【指定教科書】 なし					【参考書等】 河野和清編著「教育行政学」(ミネルヴァ書房)、文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)	

2023年度 授業計画

保育学科 No.27

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	
特別支援教育 (障がい児の保育を含む)	山本 正俊	単 独	S	必修 選択 2	1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育
HC3154KC						<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
科目(区分)	教職に関する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	教育の基礎的理解に関する科目					保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、幼稚園や保育所等における障がい児保育の意義を学び、現状を把握していきます。また、特別な支援を必要とする幼児、児童の障害の特性、支援の方法、環境の在り方について、具体的かつ実践的に学びます。			【成績の評価方法】 定期試験 50% レポート・ワークシート 20% 授業への参加度、グループワーク 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・特別な支援を必要とする子どものライフステージを知り、ライフステージの各段階における支援や社会資源を理解する。 ・特別な支援を必要とする子ども達に対する合理的配慮のある教育・保育課程及び支援の方法を理解する。 ・幼児期の支援の現状と課題について理解し、関係機関との連携や家族への支援、地域への参加について学ぶ。 ・発達期の障害に関する基礎的な理解を持ち、発達障がい児の保育指導、発達支援についての知識と技術を習得する。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △			
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○			
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○			
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎			
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ◎			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	オリエンテーション	オリエンテーション、授業の進め方、なぜ特別な支援が必要か等について			
	2	特別な支援を必要とする児童の概要	障害のある子どもと発達障害について			
	3	特別支援教育・障害児保育の歴史と現状、課題	特別支援教育、障がい児保育を支える理念、現状と課題について			
	4	関係機関との連携、保護者支援	関係機関との連携、親の心情を理解する、保護者支援の実践について			
	5	特別支援教育の実際	特別な支援を必要とする児童の教育の制度、教育課程について			
	6	障がい児保育の実際	保育所や児童発達支援センター等における障がい児保育の実際について			
	7	障害の状態に応じた指導内容や指導方法①	肢体不自由・知的障害・視覚障害・聴覚障害について			
	8	障害の状態に応じた指導内容や指導方法②	ダウン症候群・自閉症スペクトラムについて			
	9	障害の状態に応じた指導内容や指導方法③	ADHD・LD・病弱について			
	10	支援方法を理解(ビデオ視聴)	母国語や貧困等の問題を抱える子どもの支援と障害のある子どもの保育に関わる現状について			
	11	コミュニケーション障害のある児童の理解と支援	主なコミュニケーション障害と配慮事項、支援について			
	12	個別の指導計画、個別の教育支援計画での支援	個に応じた効果的な援助の理解について			
	13	個別指導と集団指導	集団と個別の指導が実際の支援の場で不可欠であることについて			
	14	これからのインクルーシブ教育について	今後の進むべき方向・理念の理解について			
	15	まとめ	特別支援教育における保育者の役割を考える			
■ 定期試験 ■ その他試験(□ 筆記 □ 実技 □ 口頭試問 ■ 発表 ■ 課題提出 □ その他) □ 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間以上) (予習)事前に授業プリントを読み、ポイントについて資料を集め調べましょう。 (復習)授業中に説明されたこと、授業プリントに記載されていることを整理し、まとめておきましょう。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを適宜取り入れ、グループ課題に取り組んだり、発表等を行います。						
【課題等への対応】 授業で課した「ワークシート」や「レポート」は添削の上返却します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」、(チャイルド本社)、【今知っておきたい特別支援教育】(函館短期大学) https://www.hakodate-jc.ac.jp/open_edu_resources.html			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
幼児と健康	渡邊 義明	単 独	S	必修 選択 1	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
HC3201KC						
科目(区分)	領域及び保育内容の指導法に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	領域に関する専門的事項 ・健康				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領で示す領域「健康」のねらいと内容を理解し、乳幼児の支援において理解しておかなければならない発達過程と発達課題について学びます。また、子どもが安全な生活を送るための配慮事項や事故の防止策、看護の方法について学びます。 ☆公私立の学校現場及び教育行政で「発達段階と健康・安全・スポーツ」を指導した経験を授業に反映します。			【成績の評価方法】 定期試験 60% レポート 20% 授業への参加度 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・健康の必要性、特に乳幼児期における健康の重要性を理解する。 ・子どもの発達過程を知り、各過程における課題及び支援のあり方を理解する。 ・安全の必要性を認識し、事故の防止策及び看護のあり方について理解する。 ・保育者としての知識・技能の向上に努める。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	今なぜ「健康」なのか	社会変化と健康の捉え方の変化、広義の「健康」の理解			
	2	子どもの「健康」の現状と課題	現代社会における子どもの生活実態と課題			
	3	領域「健康」のねらいと内容	3法令における「健康」の捉え方			
	4	子どもの発達過程と発達課題①	1歳3か月未満	健康・安全面から発達過程を理解し、併せて、発達課題及び支援のあり方を理解する		
	5	子どもの発達過程と発達課題②	1歳3か月から おおむね2歳	健康・安全面から発達過程を理解し、併せて、発達課題及び支援のあり方を理解する		
	6	子どもの発達過程と発達課題③	おおむね3歳から4歳	健康・安全面から発達過程を理解し、併せて、発達課題及び支援のあり方を理解する		
	7	子どもの発達過程と発達課題④	おおむね5歳から6歳	健康・安全面から発達過程を理解し、併せて、発達課題及び支援のあり方を理解する		
	8	子どもの発達過程と発達課題⑤	乳幼児期の発達過程と健康・安全面の課題及び支援のあり方をまとめた自己資料の作成			
	9	子どもの安全生活①	子どもを取り巻く危機の種類と防止策			
	10	子どもの安全生活②	危機対応のあり方			
	11	子どもの事故の現状と防止①	子どもの事故の現状と原因			
	12	子どもの事故の現状と防止②	子どもの事故の防止策と応急処置			
	13	保育における看護①	看護の目的と求められる力			
	14	保育における看護②	症状別観察の視点及びケア(発熱、頭痛、咳、嘔吐、下痢)			
	15	保育における看護③	症状別観察の視点及びケア(脱水、発疹、腹痛、けいれん)			
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)教育要領、保育指針、教育・保育要領に目を通し、特に健康・安全に関する内容を確認しておいてください。 (復習)授業時の配布資料に再度目を通し、効果的に活用できる資料整理に努めてください。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 授業テーマについてのグループディスカッションを行います。 4～8において、「読む・まとめる・ディスカッション・発表」の進め方とします。						
【課題等への対応】 課題の評価の確認は、個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(チャイルド本社)、「子どもの保健」(一藝社)、幼児期運動指針(文部科学省)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
幼児と人間関係 HC3202KC	山脇 寛子	単 独	S	必修 選択 1	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	領域及び保育内容の指導法に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	領域に関する専門的事項 ・人間関係				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「人間関係」について学び、幼児の発達の姿と関連付けながら、人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けます。幼児を取り巻く環境やその現代の特徴についても理解し、実践場面における指導法に繋がられるよう、人間関係の援助に関する事例検討等を積極的に取り入れます。 ☆臨床現場、教育現場でのカウンセリング及び心理教育経験を生かし、コミュニケーションを重視した授業を行います。			【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・幼児を取り巻く人間関係を理解する。 ・乳幼児期に育つ人と関わる力について、発達の姿と合わせて理解する。 ・個と集団との関係や、家族・集団・地域社会との関わりについて理解し、関心を深める。 ・道徳観や規範意識の芽生えについて理解し、説明できる。 ・実践場面における保育者の役割について理解し、関心を深める。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	オリエンテーション —領域「人間関係」とは—	授業概要等説明、領域「人間関係」について、現代の人間関係			
	2	領域「人間関係」における目標・ねらい・内容	要領・指針における「人間関係」の目標・ねらい・内容			
	3	0歳児の人との関わりの育ち	0歳児の発達、主たる養育者との出会い、愛着形成			
	4	1歳児の人との関わりの育ち	1歳児の発達、他者との関わり			
	5	2歳児の人との関わりの育ち	2歳児の発達、他者との関わり			
	6	3歳児の人との関わりの育ち	3歳児の発達、他者との関わり			
	7	4歳児の人との関わりの育ち	4歳児の発達、他者との関わり			
	8	5歳児の人との関わりの育ち	5歳児の発達、他者との関わり、就学について			
	9	気になる子どもと他児との関わり	気になる子どもとは、援助方法			
	10	個と集団の育ち	個と集団との関係、道徳性、規範性			
	11	遊びの中での人間関係①	遊びの発展、イメージの共有、保育者の役割			
	12	遊びの中での人間関係②	コミュニケーションと試行錯誤、保育者の役割			
	13	遊びの中での人間関係③	自己主張と葛藤、保育者の役割			
	14	保護者・保育者との人間関係	保護者との関わり、保育者同士の関わり、手本となる自覚			
	15	「幼児と人間関係」についてのまとめ	指針・要領における領域「人間関係」の確認、まとめ			
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)実習等様々な場面で幼児の人間関係について意識的に観察しておきましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 実習やボランティア活動での経験をもとに、ディスカッションを行う。						
【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、田村美由紀・室井佑美「(領域)人間関係ワークブック」(萌文書林)			

2023年度 授業計画

保育学科 No.30

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
幼児と身体表現	渡邊 義明	単 独	S	必修 選択 1	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
HC3205KC						
科目(区分)	領域及び保育内容の指導法に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	領域に関する専門的事項 ・表現				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「表現」について学び、発育期の子どもにおける身体活動の意義、基礎的動きを身に付けることの重要性を理解します。また、身体表現活動を通して、その楽しさを感じ取るとともに、身体表現に関する知識を身に付けていきます。 ☆公私立の学校現場及び教育行政で「発達段階と健康・安全・スポーツ」を指導した経験を授業に反映します。			【成績の評価方法】 レポート 20% 授業への参加度 20% 実技（発表） 60% DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・領域「表現」のねらいと内容を理解する。 ・保育者に求められる身体表現力を、授業での活動を通して身につける。 ・子どもがからだを動かしたくなる「場・しかけ」を工夫できるようにする。 ・グループで活動を通して、コミュニケーション能力や協調性を養う。 ・子どもの体力・身体活動の現状と身体活動の意義について確認する。 ・保育者としての資質・能力の向上に努める。						
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	オリエンテーション 領域「表現」のねらいと内容	授業内容の説明、領域「表現」における身体表現の捉え方				
2	基礎的な動きづくり①	ミキシングゲーム、ボディ・コミュニケーション				
3	基礎的な動きづくり②	子どもの動きの模倣				
4	運動遊びのプログラム①	発達段階に応じた遊びの展開例				
5	運動遊びのプログラム②	発達段階に応じた遊びの展開例・運動遊び				
6	運動遊びのプログラム③	発達段階に応じた遊びの展開例・運動遊び				
7	身体表現の基礎	リズムに合わせた個人表現・グループ表現				
8	身体表現(模倣)①	身近なものの模倣(個人発表)				
9	身体表現(模倣)②	身近なものの模倣(グループ発表)				
10	身体表現(音楽)①	音楽に合わせた個人表現				
11	身体表現(音楽)②	音楽に合わせたグループ表現				
12	身体表現(音楽)③	音楽に合わせた表現の個人発表、グループ発表				
13	身体表現(パントマイム)①	無言で生活を表現(個人発表)				
14	身体表現(パントマイム)②	無言で生活を表現(グループ発表)				
15	授業の振り返り	身体表現のねらいの再確認、身体表現の楽しさ、重要性の確認				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)授業前に、テーマに沿った具体的な表現について考えておいてください。 (復習)授業中行った表現方法を図示し、ファイルしてください。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループ活動を中心に進めますので、授業テーマについてのグループディスカッションを行います。						
【課題等への対応】 発表後に個人・グループにそれぞれ対応します。課題の評価の確認は、個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社) JSPO-ACPアクティブチャイルドプログラム、親子でからだ遊び(世界文化社)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.31

授業科目名 保育内容「健康」の 指導法	担当教員名 渡邊 義明	担当形態 単 独	授業方法 L	単位数 必修 選択 2	開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	領域及び保育内容の指導法に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、教育要領、保育指針、教育・保育要領で示す領域「健康」に示された観点から、子どもの発育発達について生理学的側面から理解し、発達段階に応じた指導のあり方を学びます。また、病気・怪我・危機への対応のあり方を具体的に学び理解を深めます。 ☆公立の学校現場及び教育行政で「健康づくり」を指導した経験を授業に反映します。			【成績の評価方法】 試 験 60% 授業への参加度 20% レポート 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・領域「健康」のねらいと内容を理解する。 ・発達過程を理解するとともに、各過程に応じた指導方法を理解する。 ・基本的な生活習慣獲得のための支援のあり方を理解する。 ・起こりやすい病気や怪我に対する看護法及び応急処置法を理解する。 ・危機への対応のあり方を理解する。 ・保育者としての資質・能力の向上に努める。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	3法令改訂の主旨	3つの資質・能力と10の姿				
2	保育における「健康」	健康の定義、保育の基本と領域「健康」の考え方				
3	子どもの発育・発達と健康	発育・発達曲線から学ぶ子どもの成長過程				
4	発達段階に応じた指導法①	「排泄」の指導法①				
5	発達段階に応じた指導法②	「排泄」の指導法②				
6	発達段階に応じた指導法③	「清潔」の指導法				
7	発達段階に応じた指導法④	「食育」のねらいと指導法				
8	発達段階に応じた指導法⑤	「食事」の指導法				
9	発達段階に応じた指導法⑥	「着脱」の指導法①				
10	発達段階に応じた指導法⑦	「着脱」の指導法②				
11	発達段階に応じた指導法⑧	「睡眠」の仕組みと指導法				
12	発達段階に応じた指導法⑨	「午睡」の目的と指導法				
13	基本的な生活習慣の指導と安全管理・教育	5項目の指導法と安全管理・教育のあり方				
14	子どもの病気	病気の種類と看護のあり方				
15	危機管理と危機対応	危機管理の目的と危機発生時の対応の基本				
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)教育要領、保育指針、教育・保育要領に目を通し、特に健康・安全に関する内容を確認しておいてください。 (復習)授業時の配布資料に再度目を通し、効果的に活用できる資料整理に努めてください。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 毎回授業テーマについてディスカッションします。						
【課題等への対応】 課題の評価の確認には、個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、保育計画と方法(同文書院)、幼児期運動指針(文部科学省)			

Subject : Teaching Method for Health of Early Childhood Care and Education

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.32

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
保育内容「人間関係」の指導法	山脇 寛子	単 独	L	必修 選択 2	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
HC3209KC						
科目(区分)	領域及び保育内容の指導法に関する科目					教員の免許取得のための必修科目
施行規則等に定める科目区分又は事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)					保育士の資格取得のための必修科目
【授業の概要】 この授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」の具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身に付けます。領域「人間関係」のねらいや内容を深く理解するとともに、人と関わる力を養う保育者の役割や指導上の留意点等を学びます。「幼児と人間関係」で学んだ内容と関連付けながら、子どもの発達に即した人間関係の構築を援助する力を養います。 ☆臨床現場、教育現場でのカウンセリング及び心理教育経験を生かし、コミュニケーションを重視した授業を行います。			【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 課題提出 50%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、関心を深める。 ・子どもの発達に即した人間関係の展開と留意点について理解する。 ・幼少期における人間関係が基盤となり、その後の育ちにもつながることを理解する。 ・人間関係の構築に関する保育実践を知り、具体的な保育を構想する力を身に付ける。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	オリエンテーション	授業概要等説明、自身の人間関係の振り返り				
2	領域「人間関係」におけるねらい等について	指針・要領における「人間関係」の目標・ねらい・内容について				
3	指導計画の意義・実践例①	0歳児の指導計画から学ぶ				
4	指導計画の意義・実践例②	1歳児の指導計画から学ぶ				
5	指導計画の意義・実践例③	2歳児の指導計画から学ぶ				
6	指導計画の意義・実践例④	3歳児の指導計画から学ぶ				
7	指導計画の意義・実践例⑤	4歳児の指導計画から学ぶ				
8	指導計画の意義・実践例⑥	5歳児の指導計画から学ぶ				
9	事例① 入園期	入園期の子どもの気持ち、他児との関係作り				
10	事例② いざこざ	自他の気持ちへの気付き、感情のコントロール				
11	事例③ ルール	規範意識、ルールが持つ役割				
12	事例④ 目的の共有	共同性を育む活動、遊びの展開				
13	大人との人間関係	保護者や保育者との関わり、地域との関わり				
14	就学を見据えて	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、就学により変わる環境、幼小の交流				
15	まとめ	領域「人間関係」の指導法について				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)実習等様々な場面で幼児の人間関係について意識的に観察しておきましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 実習やボランティア活動での経験をもとに、ディスカッションを行う。						
【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、 田村美由紀・室井佑美「(領域)人間関係ワークブック」(萌文書林)			

授業科目名 保育内容「環境」の 指導法	担当教員名 水津 玉美	担当形態 単 独	授業方法 L	単位数 必修 選択 2	開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	領域及び保育内容の指導法に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、領域「環境」が示すねらいや内容の繋がりについて深く理解し、子どもの活動に関連づけて、具体的な場面での考察や環境を構成していく方法を学びます。保育指針や教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要項が目指す「主体的な深い学び」に繋がる保育の展開方法を環境から実践できるよう具体的な方法を示していきます。季節や行事、子どもの状況に応じた具体的な環境作りの方法、保育の環境の具体的なデザインの方法や子どもの状態に合わせた環境の改善など保育者の柔軟で適切な援助のあり方の実践を学んでいきます。子どもの興味を引き出し、関心をもって遊び込める環境を意図的・計画的に準備し用意する重要性や子どもの理解に合わせた保育の援助の方法を示し、現場ですぐに役立つ内容を実践していきます。 ☆主任保育士としての保育実践、新人保育士指導及び保護者支援の経験を授業に反映します。			【成績の評価方法】 定期試験 60% 授業への参加度 20% 課題提出 20%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・領域「環境」について総合的に理解する。 ・他領域との関連を理解し、「総合的に行われる保育」についての理解を深める。 ・状況に応じた子どもにとっての望ましい環境について自ら計画し実践する力を身に付ける。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	オリエンテーション	オリエンテーション・授業の概要				
2	5領域における「環境」	「環境」のねらいと内容・他領域との関係について				
3	乳幼児の育ちと領域「環境」	子どもを育てるための環境・豊かな学びを導くための環境について				
4	乳児、1～2歳児の世界と環境	「乳児・1～2歳児にふさわしい環境」と環境を構成する保育者の役割				
5	自然物を取り入れた環境について	自然環境の設置方法の考え方や取組み(園児との交流を通した実践に向けて)				
6	ものや道具の関わりについて	身近な材料を使った遊びの展開方法・自然環境の設置・実践・グループワーク				
7	文字や標識、数量や図形への関心	生活の中での文字や標識、数量や図形における意味や必要性について				
8	環境との関わりを構成する保育者の役割	身近な情報や出来事から環境を構成した遊びへつなげる方法				
9	幼児期の主体性と思考力・環境との関わり	子どもの主体性を育む環境との関わり・(園児との交流を通した実践)				
10	環境設置と園児との関わり・観察と記録①	現代の保育の課題と保育の見える化①				
11	環境設置と園児との関わり・観察と記録②	現代の保育の課題と保育の見える化②				
12	指導案作成から実践へ	模擬保育に向けた指導案の作成と改善・グループワーク				
13	模擬保育の実践	作成した指導案に基づく模擬保育の実践				
14	模擬保育の振り返り	保育の振り返り、実施内容に対する評価と課題				
15	まとめ	領域「環境」の指導法について				
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 ■課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)教育要領、保育指針、教育・保育要領に目を通し、内容を確認しておいてください。 (復習)授業時の配布資料を整理し、効果的に活用できるよう努めてください。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 模擬保育やグループワークを通して、子どもを取り巻く環境とその指導法について体験しながら理解を深める。						
【課題等への対応】 レポートは次回授業までに提出し、添削後返却する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、「保育内容環境」(萌文書林)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
保育内容「言葉」の指導法	金 銀英	単 独	L	必修 選択 2	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
HC3211KC						
科目(区分)	領域及び保育内容の指導法に関する科目				教員の免許取得のための必修科目	
施行規則等に定める科目区分又は事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				保育士の資格取得のための必修科目	
【授業の概要】 この授業では、乳幼児の言葉に関する特徴や現状・課題を踏まえたうえで「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で示す領域「言葉」のねらいおよび内容について背景となる専門領域をより深く学びます。そしてその実践となる、子どもの発達状況や個性に合わせた子どもの見方・子どもへの関わり方について考えます。同時に、児童文化財を用いて保育者としてのコミュニケーション力を高めます。			【成績の評価方法】 レポート 30% 授業への参加度 30% 発表 40%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」のねらい及び内容を理解する。 ・幼児が言葉を身に付ける過程を理解し領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を修得する。 ・絵本など児童文化財を用いた教材研究をすることができる。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	保育内容領域「言葉」と言語環境	保育所保育指針「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」に記された領域「言葉」のねらいと内容をもとに、子どもを取り囲む言語環境について学ぶ			
	2	言葉の発達①	乳児期の言葉の発達と特徴について学ぶ			
	3	言葉の発達②	幼児期の言葉の発達と特徴について学ぶ			
	4	保育と言葉	言葉を豊かにするための環境と保育者の役割、援助法を学ぶ			
	5	児童文化財と保育	絵本や童話、紙芝居の読み聞かせにおける環境構成、選書における注意点を学ぶ			
	6	児童文化財と言葉	日本語の音がもつ美しさとオノマトペに注目した読み聞かせについて学ぶ			
	7	児童文化財 絵本① 基礎	絵本の歴史や種類について学び、絵本の構成、表現について理解を深める			
	8	児童文化財 絵本② 実践	絵本を選書しグループで探求・検討を行う			
	9	児童文化財 絵本③ 実践	絵本を用いた模擬保育①			
	10	児童文化財 絵本④ 創作	絵本を用いた模擬保育②			
	11	児童文化財 わらべ歌	わらべ歌が伝承する日本語の美しいリズムと抑揚について学ぶ			
	12	児童文化財 人形劇	人形劇を通じて子どもたちの情緒・感性の育み方と表現力・創造力の育成について学ぶ			
	13	異文化との出会いと領域「言葉」	世界の児童文化財を用いる援助法とその効果について考える			
	14	現代社会と言葉の変遷	時代の変遷とともに変化するコミュニケーションと子どもの言語環境について学ぶ			
	15	まとめ	領域「言葉」と児童文化財、子どもを取り囲む言語環境について考える			
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予習-1時間程度、復習-1時間半程度) (予習)幼稚園教育要領、保育所保育指針などの領域「言葉」に関する記述を熟読し、日頃から絵本に親しみましょう。 (復習)毎回行う小テストに備えて学習内容を振り返りましょう。適宜、文章作成の課題を出します。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 授業内容に沿って口頭発表やプレゼンテーション、グループワークを行う。						
【課題等への対応】 課題については、課題ごとにGoogle Classroomで明示する。提出した課題は添削後コメントを添えて返却する。 評価に関する確認は、個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、田上貞一郎「保育者になるための国語表現」(萌文書林)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	
保育内容「表現」の指導法 HC3212KC	◇ 濱田 英司 前田 知子 藤井 智行	オムニバス	S	必修 選択 2	1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	教職に関する科目				教員の免許取得のための必修科目	
施行規則等に定める科目区分又は事項	領域及び保育内容の指導法に関する科目				保育士の資格取得のための必修科目	
【授業の概要】 この授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「表現」に関する内容について理解を深め、背景となる専門領域と関連させながら保育を構想する方法を身に付けます。 ☆声楽家として各地で演奏活動を行ってきた経験及びリトミック研究センター指導者上級の資格を授業に反映します。			【成績の評価方法】 授業への参加度 40% 課題提出 30% 授業内発表 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ・発達過程に応じた種々の表現の指導法を学び、指導・作成できる。 ・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育・教育の構想の向上に対する関心を深める。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	リトミックの基本(模倣とリズム)	発達過程に応じた模倣とリズムの身体表現に対する指導(前田)			
	2	リトミックと身体表現	子どもの活動における音楽と身体表現に対する指導(前田)			
	3	リトミックと総合的な表現	音楽表現、身体表現、言語表現など様々な表現を組み合わせた総合的な表現の指導(前田)			
	4	リトミックの模擬保育	音楽的表現を取り入れた部分実習の実践(前田)			
	5	リトミックのまとめ	振り返りと今後の課題について(前田)			
	6	「表現」における指導上の留意点(模倣)	発達過程に応じた表現における指導の留意点(濱田)			
	7	領域「表現」のねらいと内容指導計画・評価について指導案の作成	領域「表現」における指導計画作成方法と実践(濱田)			
	8	指導案の作成	領域「表現」を主題とした指導案の作成(濱田)			
	9	指導案に基づく模擬保育	領域「表現」を主題とした指導案の模擬保育実践(濱田)			
	10	各領域の関連性と小学校の教科	領域ごとに子どもが身に付ける内容の関連性や小学校の教科等とのつながり(濱田)			
	11	造形表現と指導法①(描画)	発達過程に応じた描画活動支援方法と指導法(藤井)			
	12	造形表現と指導法②(工作)	発達過程に応じた工作活動・教材の活用と指導法(藤井)			
	13	造形表現と指導法③(共同制作)	発達過程に応じた共同制作支援方法と指導法(藤井)			
	14	造形表現と指導計画	子どもの造形表現をふまえ、具体的な保育を想定した指導案の作成(藤井)			
	15	領域「表現」の指導法のまとめ	領域「表現」の各表現活動指導方法の発展性を考える(藤井)			
□定期試験 ■その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 ■発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)種々の機会をとらえて、子どもの動きや表情を意識して観察するように努めてください。 (復習)学んだ内容を振り返り、各自の疑問や課題等を明確にし、次の学びにつなげましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示します。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワーク						
【課題等への対応】 課題提出を確認した後、個別に対応します。						
【指定教科書】 今村明美・有村さやか(編著)望月たけ美・宮川萬寿美・東元りか・高地誠子(著)「子どものための音楽表現技術 一感性と実践力豊かな保育者へ」(萌文書林)			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.36

授業科目名 幼児理解と援助 (子どもの理解と援助)	担当教員名 山脇 寛子	担当形態 単 独	授業方法 L	単位数 必修 選択 2	開 講 時 期 1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	教職に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び 生徒指導、教育相談等に関する科目				保育士の資格取得のための 必修科目	
【授業の概要】 この授業では、幼児の生活や遊びの中で見られる幼児の発達、その過程で生じるつまづきやその要因等を把握するための知識や姿勢を学びます。幼児の実態に即した対応を身に付けるため、観察方法や記録についても学びます。また、子どもの理解に基づく援助の具体的な方法についても学びます。 ☆臨床現場、教育現場でのカウンセリング及び心理教育経験を生かし、コミュニケーションを重視した授業を行います。			【成績の評価方法】 定期試験 50% 授業への参加度 50%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・幼児の発達について理解している。 ・幼児を取り巻く環境について理解し、関心を深める。 ・個と集団との関係性を理解し、それぞれを観察する際に必要な視点を身に付ける。 ・観察や記録および援助に関する基本的な方法を理解している。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	オリエンテーション	授業概要等説明、幼児の生活				
2	幼児の生活と課題	現代の幼児の生活、生活を見守る保育者の役割				
3	子どもを理解するとは	実際の幼児の生活、DVD鑑賞				
4	子どもの発達理解①	発達段階と発達課題、心身の成長に伴う変化				
5	子どもの発達理解②	発達と共に変化する遊びの形態、アニミズム				
6	子どもの発達理解③	自我の発達、気持ちのコントロール				
7	子どもを「みる」	子ども観察・見守る・受け止める、多角的視点の必要性				
8	子ども理解のためのカウンセリングマインド	カウンセリングマインド、「理解された」という実感とは				
9	観察・活動しながら「理解する」	観察方法、自ら関わることで見えてくるもの				
10	記録・連携しながら「理解する」	記録の方法、記録と情報の扱い方、連携の重要性				
11	グループ学習①	グループにて事例を用いて具体的な理解と援助方法の検討				
12	グループ学習②	グループにて検討を行った具体的な理解と援助方法の発表				
13	個と集団との関係	子どものつまづき、他児との関わりによる成長				
14	気になる子どもへの援助	特別な支援が必要な子ども、他児との関係性				
15	まとめ	他機関との関わり、授業の振り返り				
<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 □課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習)各回の講義内容に目を通し、関連する事柄や問題に関して自ら調べる等の取組みを行いましょう。 (復習)授業で配布した資料に再度目を通して気付きや疑問等を整理し、次の学びへ繋げましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークやディスカッションを行う。						
【課題等への対応】 試験結果の確認には、個別に対応する。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)			

Subject :Understanding and help of infants

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	
幼児教育の方法と技術	◇ 濱田 英司 藤井 智行	オムニバス	S	必修 選択 1	1年次□前期 2年次■前期 □後期 □後期	<input type="checkbox"/> 一般教育
HC3303KC						<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	教職に関する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生活指導・教育相談等に関する科目					保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、明日を担う子ども達を支える保育現場で求められる教育・保育の方法及び技術、教材などの活用に関する基礎的な知識や技能を身に付けます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 20% 課題提出 80%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・「育みたい資質・能力」を育成するために必要な教育の方法を理解する。 ・子どもの理解に基づいた教育・保育方法の基礎的理論と実践について関心を深める。 ・教育・保育の目的に適した指導技術を身に付ける。 ・情報機器の活用を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
回	回数	テーマ	内 容			
1	ガイダンス		情報化社会での保育現場のニーズ変化と「幼児教育の方法と技術」について(濱田・藤井)			
2	教育・保育の方法・評価と改善		子どもの理解に基づく評価の基本的な考え方を理解する(濱田)			
3	教育・保育実践の計画・実施・評価		保育現場のニーズに応じた教育・保育実践計画(濱田)			
4	様々な保育・教育形態について		一斉保育と自由保育など保育形態の展開状況について(濱田)			
5	情報活用を含めた子どもの能力の育成について		子どもの規範意識の芽生えを養う方法等の理解を深める(濱田)			
6	様々な教育・保育方法の実践について		協同的な遊びの展開と援助のあり方について(濱田)			
7	保育・教育内容と行事について①		保育現場で課題となる行事の指導について(濱田)			
8	保育・教育内容と行事について②		保育現場で課題となる行事の指導を実践的に考え改善につなげる(濱田)			
9	教育・保育教材の開発について①		教材作りの基本的な考え方を理解する(藤井)			
10	教育・保育教材の開発について②		場面に応じた教材作りを考える(藤井)			
11	教育・保育教材の制作について①		教育・保育教材の制作①(藤井)			
12	教育・保育教材の制作について②		教育・保育教材の制作②(藤井)			
13	教育・保育教材の実践について①		教育・保育教材を使った模擬実践①(藤井)			
14	教育・保育教材の実践について②		教育・保育教材を使った模擬実践②(藤井)			
15	本教科の振り返り・まとめ		本授業全体を振り返るとともに、教育・保育方法のより良い実践を考える(藤井)			
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)教育・保育教材にはどのようなものがあるのか、保育者として現場で使用できる表現を考えてみましょう。 (復習)保育者として、保育実践に向けての活用を考え、発表や表現方法について考えてみましょう。						
【オフィスアワー】事前に連絡があれば、授業の前後で対応します。(濱田) オフィスアワーとして研究室に掲示します。(藤井)						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワーク、ディスカッション						
【課題等への対応】 課題提出を確認した後、個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
教育実習	前田 知子 渡邊 義明 他	複 数	E	必修 選択 4	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
HC3401KR						
科目(区分)	教職に関する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	教育実習					保育士の資格取得のための 選択科目
【授業の概要】 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、現場で実践するための基礎を実習を通して身に付けます。 実習を通して、理論と実践を総合的に体験します。 ☆公立の学校現場及び教育行政を指導した経験を授業に反映します。			【成績の評価方法】 実習評価 70% 事前事後指導での評価 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・幼稚園教育要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、教育・保育を実践することができる。 ・教育・保育に必要な領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現など)を実地に即して身に付けることができる。 ・幼児の体験との関連を考慮しながら、適切な場面で情報機器を活用することができる。 ・学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 ・様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。 ・現場で対応できる幼稚園教諭の資質・能力の向上に努める。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ○ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
実習時期・場所		実習内容・指導内容				
第1次教育実習(2年次 6月:2週間)		参加実習:指導・環境設定に参加する				
第2次教育実習(2年次10月:2週間)		全日・部分実習を行う 研究保育を行う				
※体験実習Ⅱ(2年前期):2日間 場所:本学附属幼稚園 内容:参加実習、責任実習、日誌の作成						
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input checked="" type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)既習の知識・技能を保育現場で実践できるように準備しましょう。 (復習)実習日誌を確実にまとめましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 教育実習前後にディスカッションを行い、実習内容を共有し、深める。						
【課題等への対応】 教育実習の評価の伝達を個別に行う。課題の評価の確認は、個別に対応します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 「実習の手引き」(本学作成)、文部科学省・厚生労働省・内閣府 「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.39

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
教育実習事前事後指導	渡邊 義明 水津 玉美 前田 知子	複 数	S	必修 選択 1	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
HC3402KR						
科目(区分)	教育実践に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	教育実習				保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 事前指導では教育実習生としての意識を高め、事後指導では実習の成果と課題等を振り返り、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解します。学外実習の手引きを用いて、教育実習の意義を理解します。 ☆学校現場を指導した経験を授業に反映します。(渡邊・前田) ☆主任保育士としての保育実践、新人保育者指導及び保護者支援の経験を授業に反映します。(水津)			【成績の評価方法】 授業への参加度 30% 課題提出 50% レポート 20%			
【GPA】 前の学期のGPAが1.5以上であること。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する事ができる。 ・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 ・幼稚園教諭免許取得について、確実な資質・能力の向上に努める。			社会人としての幅広い教養を身に付けている。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けている。		◎	
			保育に関する専門的な技能を身に付けている。		○	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	教育実習概要	教育実習の概要を説明する			
	2	教育実習オリエンテーション	教育実習全般の諸注意・連絡、6月の教育実習の準備を行う			
	3	書類作成	個人票等の書類の準備をする			
	4	記録について①	実習日誌の書き方について①			
	5	記録について②	実習日誌の書き方について②			
	6	指導案①	指導案の書き方について①			
	7	指導案②	指導案の書き方について②			
	8	教育実習直前オリエンテーション	実習の諸注意、諸手続きを行う			
	9	教育実習事後指導①	事後報告のレポートを作成する			
	10	教育実習事後指導②	教育実習についてグループディスカッションを行う			
	11	教育実習事後指導③	グループディスカッションの発表を行う①			
	12	教育実習事後指導④	グループディスカッションの発表を行う②			
	13	指導案③	指導案の書き方について③			
	14	指導案④	指導案の書き方について④			
	15	教育実習オリエンテーション	10月の教育実習の準備を行う			
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input checked="" type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)実習に関する内容・日程を確認し、計画・準備をしましょう。 (復習)諸手続き書類、レポート、実習日誌の提出を確実にいきましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 教育実習前後にディスカッションを行い、実習内容を共有し、深める。						
【課題等への対応】 教育実習の評価の伝達を個別に行う。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、「学外実習の手引き」(本学)			

Subject :Sturdy of Teaching Practice at Kindergarten (Guidance before and after)

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input type="checkbox"/> 資格科目
教職実践演習(幼稚園) I HC3403K	◇ 亀田久美子 渡邊 義明	複 数	S	必修 選択 1	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	教職に関する科目				教員の免許取得のための 必修科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項	教育実践に関する科目				保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 幼稚園教諭・保育士になるための必要な実践力に関して、「幼児教育・保育者の役割、職務内容、責任、使命感、教育的愛情」「社会性、対人関係能力」「幼児理解、クラス経営」「教科、保育内容の指導力」の観点から、各自の修得状況を総合的に自己分析・診断する。各教科の教員の授業から、保育の理論と実践をもう一度振り返り、それぞれの専門性を自分のものとするを目標とします。各授業での実践や演習課題に取り組み、総合的な保育の学びへと結びつける意識を持ちましょう。保育内容(5領域)に関する内容については、保育計画、指導案作成に取り組み保育実践力につなげていきます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 課題提出・小テスト 40% ファイル整理 10%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・大学で学んでいる学習内容を「保育実践」に結び付けて再構築し、保育現場で求められる実践力を高める。 ・自ら望ましい保育方法について考え、保育の様々な場面において保育者に求められる判断力を高める。 ・保育者としてのコミュニケーションスキル、役割分担や責任などの対人関係に関わる意欲や態度を身につける。 ・必要な実践力に関して、幼稚園教諭、保育士になるために必要な実践力をさらに進化させ、その能力的統合を図ることで保育・教育実践に必要なコンピテンシーを高める。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 △ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	オリエンテーション	これまでの学習の振り返りと整理、これからの保育の現場における様々な場面を見通す力				
2	園の一日の流れと保育者の役割の理解について	日常の保育を構成する要素と保育者の職務				
3	活動分析のあり方について	実践の前提となる活動分析の意義とあり方(指導案作成に取り組む活動)				
4	園児が楽しめる遊び場面での指導について	遊びの活動における指導・援助を通して、子どもの理解と指導計画へつなげる				
5	クラス活動の指導・援助①	設定保育における指導・援助の在り方を指導計画作成を通して学ぶ①				
6	クラス活動の指導・援助②	設定保育における指導・援助の在り方を指導計画作成を通して学ぶ②				
7	クラス活動の指導・援助③	模擬保育の実践と振り返り①				
8	クラス活動の指導・援助④	模擬保育の実践と振り返り②				
9	クラス活動の指導・援助⑤	模擬保育の実践と振り返り③				
10	クラス活動の指導・援助⑥	模擬保育の実践と振り返り④				
11	生活場面についての指導・援助について	生活場面について指導・援助を検討し、指導計画へつなげる				
12	指導計画の再構築について	模擬保育と指導を受け、指導計画をさらに深化する				
13	授業総括	今そしてこれからの保育者に求められるものは何かについて考える				
14	教職員集団の連携・関わりについて	望ましい教職員集団について、事例から学ぶ				
15	保護者との連携・関わりについて	保護者との日頃からの報連相について事例に学ぶ				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習)次時の学習内容を把握し、インターネットを活用し事例を集め、課題意識をもって臨みましょう。 (復習)グループでの協議内容の記録をもとに、本時のねらいが達成できたか、メンバーと協力できたか、その日のうちに省察しましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして渡邊研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 授業の多くをグループワークで行います。						
【課題等への対応】 提出された課題やレポートは添削して返却します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)、教育実習日誌(本学)			

2023年度 授業計画

保育学科 No.41

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	
教職実践演習(幼稚園)Ⅱ	◇ 寺本 明生 水津 玉美	複 数	S	必修 選択 1	1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育
HC3404K						<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
科目(区分)	教職に関する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項	教育実践に関する科目					保育士の資格取得のための 選択科目
【授業の概要】 この授業では、4～5名のグループ演習を中心に、事例研究などを通して、これまでの講義・演習・校外実習で得た知識や技能を補い、保育専門職として求められる実践力を高めていきます。したがって、自己の課題を自覚し、グループ討議に積極的に参加することが大切です。 ☆学校現場および教育行政での経験を、教職関連科目の授業に反映します。			【成績の評価方法】 授業への参加度 50% 課題提出・小テスト 40% ファイル整理 10%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・様々な教育・保育現場の特色や取組を知り、適応力の基礎を身に付ける。 ・保護者対応の基本と、信頼関係を築くために必要な心構えを知る。 ・事例を通して、保育に係る実践力を身に付ける。 ・担任としての具体的な学級経営構想を語り合い、夢の実現につなげる。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 △ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ◎ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ○ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 ○			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	「教育実践演習」の趣旨	授業計画、評価方法の説明。グループ編成、「履修カルテ」による自己評価及び分析(寺本)			
	2	保育専門職に求められる資質・能力①	各種教育・保育現場の事例を基にしたグループ討議、発表(寺本)			
	3	保育専門職に求められる資質・能力②	保育現場の現状と、ディベートによるよりよい保育に向けた討議(寺本)			
	4	保護者対応の基本①	様々な場面を想定し、ロールプレイによる演習・発表(寺本)			
	5	保護者対応の基本②	様々な場面を想定し、ロールプレイによる演習・発表(寺本)			
	6	クラスだよりの工夫①	クラスだよりの基本的考え方、事例(寺本)			
	7	クラスだよりの工夫②	Wordを使ったクラスだよりの作成演習(寺本)			
	8	クラスだよりの工夫①	作成したクラスだよりの発表と相互評価(寺本)			
	9	保育現場におけるコンプライアンス	保育現場に関わりの深い法令の知識習得(寺本)			
	10	保育現場における危機管理	様々な危機とその予知能力・対応能力の習得(寺本)			
	11	事例をもとにした実践演習①	Wordを使ったドキュメンテーションの事例と作成演習(寺本)			
	12	事例をもとにした実践演習②	Excelを使った指導計画の事例と仮定作成演習(寺本)			
	13	保育者としての自覚	担任を想定した学級経営構想の作成とグループ討議、発表(寺本)			
	14	保育現場における特別支援教育	保育現場における特別支援教育の現状と取組の実際(寺本)			
	15	保育者としての資質・能力の確認とまとめ	社会人、新任保育者への抱負(レポート作成)(寺本)			
□定期試験 ■その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 □発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週3時間程度) (予習)次時の学習内容を把握し、書籍やインターネット等を活用し事例を集め、課題意識をもって臨みましょう。 (復習)グループでの協議内容の記録をもとに、本時のねらいが達成できたか、メンバーと協力できたか、その日のうちに省察しましょう。						
【オフィスアワー】特に定めませんが、事前に連絡をしてください。日程調整してお知らせします。						
【アクティブラーニングの授業手法】 授業の多くをグループワークで行います。						
【課題等への対応】 提出された課題やレポートは添削して返却します。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 教育実習日誌(本学)、施設実習日誌(本学)、付属第二幼稚園コンプライアンスマニュアル、危機管理マニュアル			

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
児童文化Ⅱ (創作・劇表現) HB3502KC	藤井 智行	単 独	S	必修 1 選択	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	大学が独自に設定する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項						保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めま す。「創作発表会」(創作・劇表現)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養 い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。ま た、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を 養い、感性豊かな表現力を身に付けます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高 める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。		○	
			保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。		◎	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
回 数	テ マ	内 容				
1	ガイダンス・クラス分けについて	授業概要・評価の観点と授業計画について				
2	活動計画について	本授業の活動における具体的な計画を立てる				
3	発表媒体作成・内容表現検討①	各クラスで表現媒体(原案作成)を行う				
4	発表媒体作成・内容表現検討②	各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る				
5	発表媒体作成・内容表現検討③	各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える				
6	発表媒体・内容表現作成	各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う				
7	中間発表①	発表方法について試行する				
8	発表媒体・内容表現の見直し①	発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う				
9	発表媒体・内容表現の見直し②	中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う				
10	中間発表②	改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える				
11	発表媒体・内容表現の仕上げ①	改善点をふまえ修正・制作を行う				
12	発表媒体・内容表現の仕上げ②	リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う				
13	「創作発表会」リハーサル	リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する				
14	「創作発表会」	本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協 働作業を行う				
15	まとめ・振り返り	「創作発表会」に対する反省と振り返り				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょう。						
【オフィサー】オフィサーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保 育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」 (チャイルド本社)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.42-2

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開 講 時 期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
児童文化Ⅱ (身体表現) HB3502KC	渡邊 義明	単 独	S	必修 1 選択	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	大学が独自に設定する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項						保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めま す。「創作発表会」(身体表現)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養 い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。 また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性 を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30% DPとの関連(大◎、中○、小△)			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を 高める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。			社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	ガイダンス・クラス分けについて	授業概要・評価の観点と授業計画について			
	2	活動計画について	本授業の活動における具体的な計画を立てる			
	3	発表媒体作成・内容表現検討①	各クラスで表現媒体(原案作成)を行う			
	4	発表媒体作成・内容表現検討②	各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る			
	5	発表媒体作成・内容表現検討③	各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える			
	6	発表媒体・内容表現作成	各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う			
	7	中間発表①	発表方法について試行する			
	8	発表媒体・内容表現の見直し①	発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う			
	9	発表媒体・内容表現の見直し②	中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う			
	10	中間発表②	改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える			
	11	発表媒体・内容表現の仕上げ①	改善点をふまえ修正・制作を行う			
	12	発表媒体・内容表現の仕上げ②	リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う			
	13	「創作発表会」リハーサル	リハーサルを通じて各演目に関する課題を見つけ、改善する			
	14	「創作発表会」	本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協 働作業を行う			
	15	まとめ・振り返り	「創作発表会」に対する反省と振り返り			
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題を見つけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょ。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保 育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」 (チャイルド本社)			

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.42-3

授業科目名 児童文化Ⅱ (音楽表現) HB3502KC	担当教員名 前田 知子	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 1 選択	開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	大学が独自に設定する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項						保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めま す。「創作発表会」(音楽表現)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養い、 専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。また、 受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を養 い、感性豊かな表現力を身に付けます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高 める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。			DPとの関連(大◎、中○、小△)			
			社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。		○	
			保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。		○	
			保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。		◎	
			状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。		◎	
			自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。		△	
【授業計画】						
回 数	テ マ	内 容				
1	ガイダンス・クラス分けについて	授業概要・評価の観点と授業計画について				
2	活動計画について	本授業の活動における具体的な計画を立てる				
3	発表媒体作成・内容表現検討①	各クラスで表現媒体(原案作成)を行う				
4	発表媒体作成・内容表現検討②	各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る				
5	発表媒体作成・内容表現検討③	各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える				
6	発表媒体・内容表現作成	各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う				
7	中間発表①	発表方法について試行する				
8	発表媒体・内容表現の見直し①	発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う				
9	発表媒体・内容表現の見直し②	中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う				
10	中間発表②	改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える				
11	発表媒体・内容表現の仕上げ①	改善点をふまえ修正・制作を行う				
12	発表媒体・内容表現の仕上げ②	リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う				
13	「創作発表会」リハーサル	リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する				
14	「創作発表会」	本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協 働作業を行う				
15	まとめ・振り返り	「創作発表会」に対する反省と振り返り				
□定期試験 ■その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 ■発表 ■課題提出 □その他) □試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保 育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」 (チャイルド本社)			

Subject :Arts and Culture for Children II

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.42-4

授業科目名 児童文化Ⅱ (保育内容表現) HB35026KC	担当教員名 水津 玉美	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 1 選択	開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	大学が独自に設定する科目				教員の免許取得のための必修科目	
施行規則等に定める科目区分又は事項					保育士の資格取得のための必修科目	
【授業の概要】 この授業では、保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めます。「創作発表会」(保育内容表現)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内 容			
	1	ガイダンス・クラス分けについて	授業概要・評価の観点と授業計画について			
	2	活動計画について	本授業の活動における具体的な計画を立てる			
	3	発表媒体作成・内容表現検討①	各クラスで表現媒体(原案作成)を行う			
	4	発表媒体作成・内容表現検討②	各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る			
	5	発表媒体作成・内容表現検討③	各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える			
	6	発表媒体・内容表現作成	各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う			
	7	中間発表①	発表方法について試行する			
	8	発表媒体・内容表現の見直し①	発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う			
	9	発表媒体・内容表現の見直し②	中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う			
	10	中間発表②	改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える			
	11	発表媒体・内容表現の仕上げ①	改善点をふまえ修正・制作を行う			
	12	発表媒体・内容表現の仕上げ②	リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う			
	13	「創作発表会」リハーサル	リハーサルを通じて各演目に関する課題を見つけ、改善する			
	14	「創作発表会」	本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協働作業を行う			
	15	まとめ・振り返り	「創作発表会」に対する反省と振り返り			
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題を見つけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょう。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)			

Subject : Arts and Culture for Children II

2023年度 授 業 計 画

保育学科 No.42-5

授業科目名 児童文化Ⅱ (特別支援教育研究) HB3502KC	担当教員名 山本 正俊	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 1 選択	開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	大学が独自に設定する科目					教員の免許取得のための 必修科目
施行規則等に定める 科目区分又は事項						保育士の資格取得のための 必修科目
【授業の概要】 この授業では、保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めま す。「創作発表会」(特別支援教育研究)を通して主体性を持ち能動性、積極 性を養い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付け ます。また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や 協調性を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。				【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30%		
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高 める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。				DPとの関連(大◎、中○、小△)		
				社会人としての幅広い教養を身に付けて いる。 ○		
				保育に関する専門的な知識を身に付けてい る。 ○		
				保育に関する専門的な技能を身に付けてい る。 ◎		
				状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々 と協働できる。 ◎		
				自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発 展に貢献できる。 △		
【授業計画】						
回次	テーマ	内 容				
1	ガイダンス・クラス分けについて	授業概要・評価の観点と授業計画について				
2	活動計画について	本授業の活動における具体的な計画を立てる				
3	発表媒体作成・内容表現検討①	各クラスで表現媒体(原案作成)を行う				
4	発表媒体作成・内容表現検討②	各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る				
5	発表媒体作成・内容表現検討③	各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える				
6	発表媒体・内容表現作成	各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う				
7	中間発表①	発表方法について試行する				
8	発表媒体・内容表現の見直し①	発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う				
9	発表媒体・内容表現の見直し②	中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う				
10	中間発表②	改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える				
11	発表媒体・内容表現の仕上げ①	改善点をふまえ修正・制作を行う				
12	発表媒体・内容表現の仕上げ②	リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う				
13	「創作発表会」リハーサル	リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する				
14	「創作発表会」	本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協 働作業を行う				
15	まとめ・振り返り	「創作発表会」に対する反省と振り返り				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 □実技 □口頭試問 <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょう。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。						
【指定教科書】 なし				【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保 育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」 (チャイルド本社)		

授業科目名 児童文化Ⅱ (心理研究) HB3502KC	担当教員名 山脇 寛子	担当形態 単 独	授業方法 S	単位数 必修 1 選択	開 講 時 期 1年次□前期 2年次□前期 □後期 ■後期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目 <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
科目(区分)	大学が独自に設定する科目				教員の免許取得のための必修科目	
施行規則等に定める科目区分又は事項					保育士の資格取得のための必修科目	
【授業の概要】 この授業では、保育・教育に関する専門知識を深め、表現する力を高めます。「創作発表会」(心理研究)を通して主体性を持ち能動性、積極性を養い、専門職にふさわしい自律的な保育者となるための技術を身に付けます。また、受講者同士が協力して活動する過程で、コミュニケーション力や協調性を養い、感性豊かな表現力を身に付けます。			【成績の評価方法】 授業への参加度 70% レポート 30%			
【授業のテーマ及び到達目標】 ・保育・教育に関する専門知識や総合的な表現に対する理解を深める。 ・発表を通し、子どもに分かる・伝わる・楽しめる表現や演出について関心を高める。 ・コミュニケーション力を高め、協働する態度や技術を身に付ける。			DPとの関連(大◎、中○、小△) 社会人としての幅広い教養を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な知識を身に付けている。 ○ 保育に関する専門的な技能を身に付けている。 ◎ 状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。 ◎ 自分と相手の思いを大切に、地域社会の発展に貢献できる。 △			
【授業計画】						
チェック回数	テーマ	内 容				
1	ガイダンス・クラス分けについて	授業概要・評価の観点と授業計画について				
2	活動計画について	本授業の活動における具体的な計画を立てる				
3	発表媒体作成・内容表現検討①	各クラスで表現媒体(原案作成)を行う				
4	発表媒体作成・内容表現検討②	各クラスで表現媒体・内容表現の具体案を練る				
5	発表媒体作成・内容表現検討③	各クラスで表現媒体・内容の細かい表現を考える				
6	発表媒体・内容表現作成	各クラスで表現媒体・内容表現の検討・発表練習等を行う				
7	中間発表①	発表方法について試行する				
8	発表媒体・内容表現の見直し①	発表後の改善点をふまえ、修正・制作を行う				
9	発表媒体・内容表現の見直し②	中間発表に向けて修正・制作・発表の改善を行う				
10	中間発表②	改善後の発表をふまえ、互いに改善点を考える				
11	発表媒体・内容表現の仕上げ①	改善点をふまえ修正・制作を行う				
12	発表媒体・内容表現の仕上げ②	リハーサルにむけて点検・修正・制作・発表の改善を行う				
13	「創作発表会」リハーサル	リハーサルを通じて各演目に関する課題をみつけ、改善する				
14	「創作発表会」	本番での観客とのコミュニケーションを通じて各々の表現技術や協働作業を行う				
15	まとめ・振り返り	「創作発表会」に対する反省と振り返り				
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> その他試験(□筆記 ■実技 □口頭試問 ■発表 ■課題提出 □その他) <input type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】 (準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間30分程度) (予習)日頃から子どもの姿を観察し参考となるような表現方法はメモしておきましょう。 (復習)メンバーと協力し、表現に対する課題をみつけ、問題点を整理しより良い発表にむけ準備や練習を行いましょ。						
【オフィスアワー】 オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 グループワークを行い、作品発表の表現方法を深める。						
【課題等への対応】 作品発表の講評を個別に行う。						
【指定教科書】 なし			【参考書等】 文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(各最新版)」(チャイルド本社)			

保 育 学 科 2 年

専 門 教 育 科 目

(レクリエーションインストラクター資格に関する科目)

2023年度 授業計画

保育学科 No.43

授業科目名	担当教員名	担当形態	授業方法	単位数	開講時期	<input type="checkbox"/> 一般教育 <input type="checkbox"/> 専門科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 <input checked="" type="checkbox"/> 資格科目
レクリエーション実習 HC4103R	藤井 智行 他	複数	E	必修 選択 1	1年次 <input type="checkbox"/> 前期 2年次 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 後期	
科目(区分)	レクリエーションインストラクター資格に関する科目				教員の免許取得のための 選択科目	
施行規則等に定める 科目区分又は事項					保育士の資格取得のための 選択科目	
【授業の概要】 この実習では、地域社会、福祉、医療機関等あらゆる領域で地域貢献を幅広く行っているレクリエーション活動の応用と実践を学びます					【成績の評価方法】 実習等 50% 行事等への参加度 50%	
					DPとの関連(大○、中○、小△)	
					社会人としての幅広い教養を身に付けている。	○
【授業のテーマ及び到達目標】 ・実習を通し、レクリエーション支援と手段としてのレクリエーションを理解する。 ・多様な実技や指導法と指導技術を修得する。 ・健康で楽しいライフスタイルを築いていきたいと願う人間の指導者及び援助者としての力を培う。					保育に関する専門的な知識を身に付けている。	△
					保育に関する専門的な技能を身に付けている。	○
					状況に応じて正しい判断を行い、多様な人々と協働できる。	◎
					自分と相手の思いを大切にし、地域社会の発展に貢献できる。	◎
【授業計画】						
チェック	回数	テーマ	内容			
		キャンプ実習の参加	○野外レクリエーションにおける各演習の参加			
		レクリエーション協会主催行事 事業参加	○ 日本レクリエーション協会主催事業 ○ 山口県レクリエーション協会主催事業 ○ 下関市レクリエーション協会主催事業 等			
		レクリエーション協会主催行事 スタッフ参加	○ 日本レクリエーション協会主催事業 ○ 山口県レクリエーション協会主催事業 ○ 下関市レクリエーション協会主催事業 等			
		総合評価・解説	資格習得についての説明を行う			
<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> その他試験(<input type="checkbox"/> 筆記 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 口頭試問 <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 課題提出 <input type="checkbox"/> その他) <input checked="" type="checkbox"/> 試験を実施しない						
【準備学習(予習・復習)】(準備学習目安時間:予復習合わせ週1時間程度) (予習)レクリエーションの基礎と演習を学んでおきましょう。 (復習)本実習と大会参加、スタッフとしての活動をまとめておきましょう。						
【オフィスアワー】オフィスアワーとして研究室に掲示しています。						
【アクティブラーニングの授業手法】 実習・グループワーク・フィールドワーク						
【課題等への対応】 実習参加を確認した後、個別に対応します。						
【指定教科書】 なし					【参考書等】 公益財団法人日本レクリエーション協会 「楽しさをおとした心の元気づくり」	

Subject : Technique of Plastic Arts for Infant